

阿蘇草原キッズ・プロジェクト

# 草原環境学習 事例集

～阿蘇の子どもたちに草原を伝えよう～



平成25年7月

阿蘇草原再生協議会 草原環境学習小委員会



## ”ふるさと阿蘇”を愛する子どもたちの育成に向けて



阿蘇草原再生協議会会長 高橋佳孝

一万年以上もの永きにわたり人と自然が関わり合ってきた歴史を持つ阿蘇の草原が、いま消滅の危機を迎えています。しかし、草原の危機状況を知らないまま地元の子どもの多くは、ふるさとをあとにしています。「草原に行ったことがない」、「テレビでしか野焼きは知らない」、「牛にさわったことがない」という子どもたちが草原を学び、理解を深める機会を作りたいという思いから、阿蘇草原再生協議会の草原環境学習小委員会では学校教育現場で活用できる学習プログラムづくりに向けて「阿蘇草原キッズ・プロジェクト」を5ヶ年計画で進めているところです。

地域や風土と切り離して自然や環境の問題を語ることはできません。これは、「知床半島」や「白神山地」に代表されるような、遠く離れた場所の自然や環境問題の知識を伝えるという漠然とした教育プログラムとは異なり、自分の育ったふるさとの自然に愛着や誇りを持ち、草原を守る地域の担い手や支え手としての意識を育むという明確な目的をもつものです。この事例集は、その一環としてこれまで各学校が実際に取り組んできた草原環境学習プログラムの事例をまとめたものです。

学校での学習のなかで草原を学ぶ児童たちは、フィールドでの体験を通して、そして草原にまつわる地域の行事に参加することで、地域とつながり、同時に地域を真剣に見直すことになるでしょう。この事例集が、ふるさとを愛し、郷土意識をもった心豊かな子どもたちの育成に向けた学習の進展に寄与できればと願っています。

## 子どもたちに阿蘇の草原の大切さを知ってもらいたい



阿蘇草原再生協議会

草原環境学習小委員会委員長 池辺伸一郎

草原環境学習小委員会が行う「草原キッズ・プロジェクト」は、平成21年(2009年)から5ヶ年計画で始まりました。このプロジェクトは、現在阿蘇地域が抱える草原維持に関する様々な課題の中で、地域の子どもたちに草原の重要性を理解してもらうことによって、彼ら自身が近い将来、草原の維持等に関する活動の担い手となってもらいたいという願いを込めたものです。

そのための一つのゴールとして、少なくとも阿蘇地域のすべての小学校において、学校での授業の中で草原について学習してもらいたい、つまり「草原環境学習のカリキュラム化」を目指してきました。その実現に向けて、学校等での個別の草原環境学習、1泊2日の体験型学習(ショートスクール)、モデル校の指定とモデルプログラムの実践など様々な活動を実施してきました。このことによって、この4年間で阿蘇郡市の小中学校の半数以上に当たる22の学校、1400名以上の子どもたちが草原の学習に参加してくれました。

現時点で当初の目標に到達することはできていませんが、少しずつ確実に成果を上げつつあるとは感じています。本年度をもって「阿蘇草原キッズ・プロジェクト」の取り組みは一区切りを迎えますが、これまでの活動をさらに継続して進めていくことが大切だと考えています。

この小冊子には、これまでに実施してきた様々なプログラムを「事例集」として掲載しました。草原環境学習と一口に言っても、このように様々な切り口から学習を行うことができます。これらの学習事例を参考に、少しでも多くの子どもたちに草原環境学習を実施していただき、阿蘇の草原の大切さについての理解者となってもらいたいと願っています。

### ◇阿蘇草原再生協議会について◇

「阿蘇草原再生」とは、阿蘇草原地域において、地域の多様な主体の参加により保全や維持管理を含む自然再生の幅広い取り組みを進め、以前の多様性のある草原環境を取り戻そうとするもの。

阿蘇草原再生協議会は、自然再生推進法に基づき、阿蘇草原再生に向けた取り組みに関わる地元牧野組合をはじめ様々な団体・法人及び個人が自主的に参加して、平成17年12月に設立。平成19年3月には「阿蘇草原再生全体構想」を策定、目標を「草原の恵みを持続的に生かせる仕組みを現代に合わせて作り出し、かけがえのない阿蘇の草原を未来へ引き継ぐ」として、地域内外の様々な人々の連携・協力により草原再生の取り組みを推進し、自然環境や農畜産業、ひいては地域社会の再生に繋がっていくことを目指している。全体構想において、草原再生に向けた取り組みのテーマの1つとして草原環境学習の推進が位置づけられている。平成25年3月現在、協議会の構成員数は234団体・法人及び個人。

# 阿蘇草原キッズ・プロジェクト 草原環境学習 事例集

～阿蘇の子どもたちに草原を伝えよう～

## ◇目次

### はじめに

#### 1. 阿蘇草原キッズ・プロジェクトの概要

(1) プロジェクトの目的と取り組みの概要.....	1
(2) 平成 21 年度～平成 24 年度までの成果.....	2
(3) 草原環境学習プログラム（基本プログラム）の作成について.....	4

#### 2. 実践事例の紹介

(1) 個別プログラムの事例.....	5
事例 1 阿蘇から連想するもの～実際に見てみよう！（現地観察会）.....	6
事例 2 専門家に聞いてみよう！.....	8
事例 3 あか牛とのふれあい学習.....	10
事例 4 あか牛について学ぼう！（ルデー号の見学、阿蘇の畜産を学ぶ）.....	12
事例 5 あか牛について学ぼう！（肥育牛の見学）.....	14
事例 6 草原のススキで卒業証書を作ろう.....	16
事例 7 自分たちにできることを実践しよう！「草の人形（フクロウ）づくり」.....	18
事例 8 野焼きについて学ぼう（事前学習、野焼き体験、事後学習）.....	20
事例 9 オオルリシジミの学習.....	22
事例 10 りんどうヶ丘の草原で見つけよう！.....	24
事例 11 草小積みを作ろう！.....	26
事例 12 「九州の水がめ、阿蘇」について学ぼう.....	28
事例 13 自分たちに何ができるか考えよう.....	30
事例 14 自分たちにできることを実践しよう！「草原のごみ拾い」.....	32
事例 15 自分たちにできることを実践しよう！「草原保全に向けた PR 活動」.....	34

#### (2) ショートスクール／短期宿泊型の事例

阿蘇の草原キッズになろう！「秋編」「野焼き編」.....	36
------------------------------	----

#### (3) 年間を通した学習プログラムの事例

1) 坂梨小学校における年間学習プログラムの実践.....	39
2) 碧水小学校における年間学習プログラムの実践.....	41
3) りんどうヶ丘小学校 ～ワークブックを活用した草原環境学習の実践～.....	43

【参考】各学校での草原環境学習の取り組みに向けて.....	47
-------------------------------	----

- ・ 参考資料
- ・ 施設紹介
- ・ 草原環境学習プログラムに関する問い合わせ窓口



# 1. 阿蘇草原キッズ・プロジェクトの概要

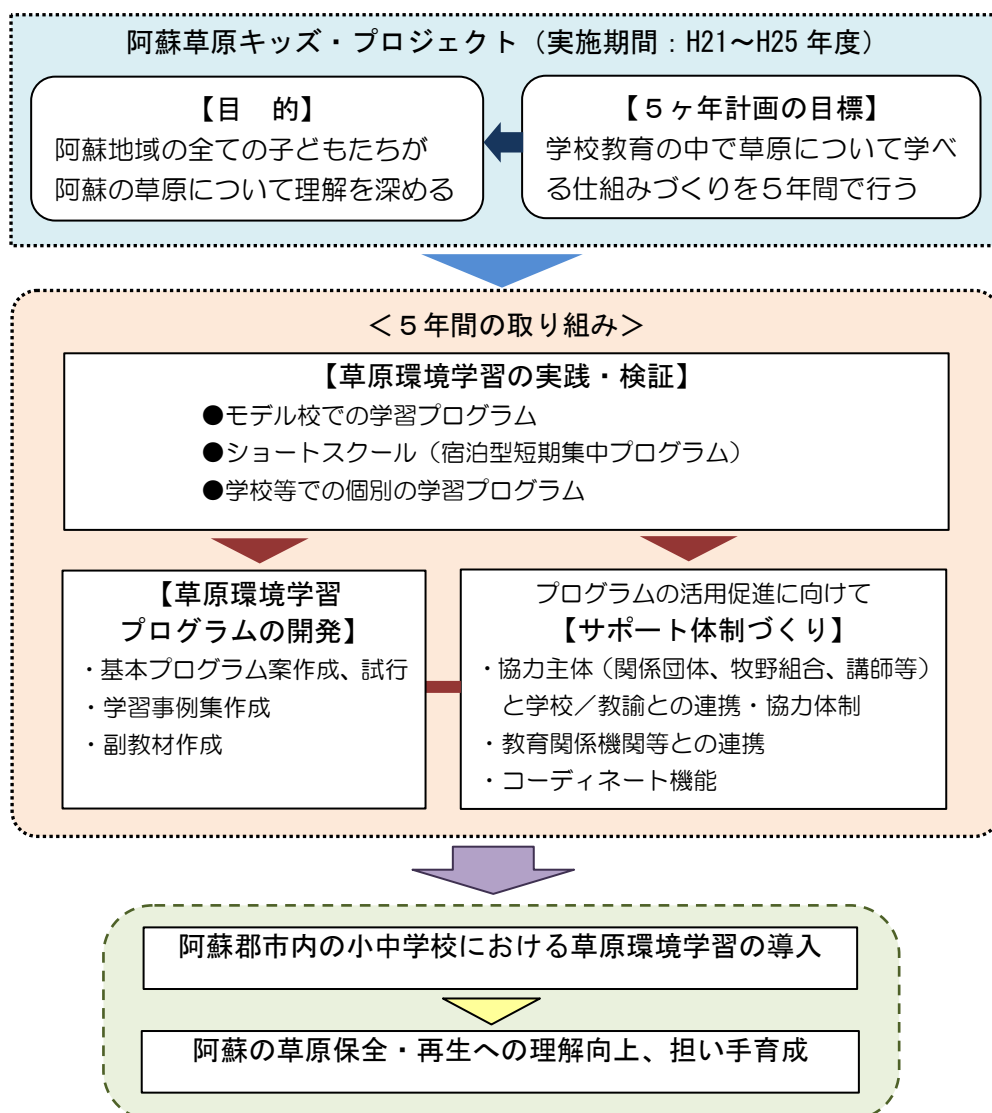
## (1) プロジェクトの目的と取り組みの概要

阿蘇草原キッズ・プロジェクトは、阿蘇地域の全ての子どもたちが地域で守り継がれてきた草原について理解を深めることを目的として、阿蘇草原再生協議会に設置された環境学習小委員会が、平成21～25年度の5ヶ年計画で進めています。

5年間の目標を、阿蘇の子どもたち全員が草原について学ぶ機会を持てるよう、学校教育の中で草原について学べる仕組みづくりとし、草原環境学習の実践・検証を通して、教育現場に導入しやすい学習プログラム案の開発と必要な副教材づくりなどを行い、あわせて、学習のサポート体制の構築を進めています。

阿蘇の子どもたちが草原について学ぶことを通して、阿蘇地域全体の草原保全・再生への理解を進め、さらに次世代の草原の担い手づくりにもつなげていくことが期待されています。

### <阿蘇草原キッズ・プロジェクトの取り組み>



## (2) 平成 21 年度～平成 24 年度までの成果

平成 21 年度にプロジェクトを開始してから4年間で、阿蘇郡市内の小中学校 40 校のうち 22 校が草原環境学習プログラムを実践しました。

これらの実践結果を反映して、学校で導入しやすい草原環境学習プログラム（基本プログラム）として 10 個のプログラム案を作成しました。また、基本プログラムの活用を促進するために、副教材や学習事例集の作成、学校や地域で草原環境学習に取り組む指導者の育成（ティーチャーズ・ワークショップ開催）を行いました。

さらに、地域全体での取り組み促進に向けて、熊本県、阿蘇郡市の教育関係機関との連携・協力体制の構築に向けた活動を進めています。

### これまでの 4 年間（H21～H24 年度）の成果



### H25 年度の取り組み予定

- |  |   |
|--|---|
| <div style="background-color: #e0ffe0; padding: 5px; border-radius: 10px;">より多くの学校、児童・生徒が参加するために</div> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 基本プログラム案と学習事例集を用いた学校への試行参加の呼びかけ</li> <li>● 学校での基本プログラム案の試行をサポート</li> </ul> |
| <div style="background-color: #e0ffe0; padding: 5px; border-radius: 10px;">学習内容をさらに充実させるために</div>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 基本プログラム案の試行結果を受けたプログラム改善、副教材の充実</li> </ul>                                 |
| <div style="background-color: #e0ffe0; padding: 5px; border-radius: 10px;">草原の学習をしっかりと支えるために</div>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域版ティーチャーズ・ワークショップ開催による指導者体制の拡充</li> </ul>                                 |



阿蘇草原キッズ・プロジェクト 平成 22 年度～24 年度の草原環境学習プログラム実施校一覧

<小学校>

市町村名	No.	学校名	H22 年度	H23 年度	H24 年度
阿蘇市	1	宮地小学校	ハガキづくり 放課後	SS野焼き体験 5 年生 ハガキづくり 放課後	SS秋編・野焼き体験 5 年生 野草紙づくり 5 年生 草原のいきもの講話 放課後
	2	坂梨小学校	モデル校年間プログラム SS秋編・野焼き体験 4、5 年生 ハガキづくり 放課後	モデル校年間プログラム SS野焼き体験 4、5 年生 ハガキづくり 放課後	卒業証書づくり 6 年生 年間プログラム 3～6 年生 SS野焼き体験 4、5 年生
	3	中通小学校	卒業証書づくり 6 年生 ハガキづくり 5 年生	卒業証書づくり 6 年生 ハガキづくり 5 年生	卒業証書づくり 6 年生 ハガキづくり 5 年生
	4	古城小学校		卒業証書づくり 6 年生 SS野焼き体験 5 年生	卒業証書づくり 6 年生 水のプログラム試行 5 年生 SS秋編 4 年生
	5	碧水小学校	モデル校年間プログラム SS秋編・野焼き体験 5 年生 ハガキづくり 放課後	モデル校年間プログラム SS野焼き体験 5 年生 ハガキづくり 放課後	卒業証書づくり 6 年生 年間プログラム 5、6 年生 SS野焼き体験 5 年生
	6	乙姫小学校		SS野焼き体験 5 年生	SS野焼き体験 5 年生
	7	阿蘇西小学校	卒業記念品づくり 6 年生 SS野焼き体験 6 年生	卒業記念品づくり 6 年生	卒業記念品づくり 6 年生 火山博出前授業 3 年生
	8	内牧小学校	ハガキづくり 放課後	ハガキづくり 放課後	火山博出前授業 5 年生
	9	山田小学校	卒業証書づくり 6 年生 植物観察 4 年生 草原の恵み・現状等 4 年生 SS野焼き体験 4 年生 ハガキづくり 放課後	卒業証書づくり 6 年生 SS野焼き体験 4 年生 ハガキづくり 放課後	卒業証書づくり 6 年生 草原自然観察 3・4 年生 ハガキづくり 放課後
	10	波野小学校	SS野焼き体験 4～6 年生 ハガキづくり 放課後	ハガキづくり 放課後	
南小国町	11	りんどうヶ丘 小学校		年間プログラム(出前) 4 年生 ※ワークブック使用	年間プログラム(出前) 4 年生 ※ワークブック使用
産山村	12	産山小学校	卒業証書づくり 6 年生 ハガキづくり 5 年生 生きもの観察 5 年生 あか牛学習 5 年生	卒業証書づくり 6 年生 ハガキづくり 5 年生	
南阿蘇村	13	中松小学校			モデル校プログラム 1、2 年生
	14	白水小学校			モデル校プログラム 3 年生
	15	久木野小学校		ハガキづくり 親子イベント	
	16	南阿蘇西 小学校			火山博出前授業 6 年生
西原村	17	河原小学校			水のプログラム試行 5 年生

(注) SS：ショートスクール、放課後：放課後子ども教室

<中学校>

市町村名	No.	学校名	H22 年度	H23 年度	H24 年度
阿蘇市	1	一の宮中学校	輪地焼き体験 希望者	野焼き体験 希望者	
	2	阿蘇中学校	草原の学習と野草紙づくり 1 年生		
南阿蘇村	3	久木野中学校		卒業証書づくり 3 年生	草原環境学習座学 1～3 年生

### (3) 草原環境学習プログラム（基本プログラム）の作成について

阿蘇草原キッズ・プロジェクトでは、阿蘇の草原について知ってもらうために欠かせない基本テーマとして4項目、学習のねらいとして7項目の案を設定しています。

#### ■学習の基本テーマ（案）

##### ○阿蘇のカルデラと草原の成り立ち、その魅力

—私たちは、地形・地質や景観などの面から特異な、素晴らしい場所に住んでいる。

—長い間、人々が手を入れることにより維持されてきた草原は、その規模や生きものの多様さ、人と自然が共生してきた歴史などからみて、世界に誇るべきものである。

##### ○くらしと草原：草原維持のしくみ

—採草・放牧・野焼きなど地域の人々により草原利用・維持管理が続けられてきたことにより、豊かな草原環境が守られてきた。  
—草資源を大切に利用してきた歴史とともに豊かな草原文化が育まれるなど、草原は地域のくらしと深く関わってきた。

##### ○草原がもたらす恵み

—阿蘇の草原は、農畜産業の場、景観、九州の水がめ、草原特有の多様な生きもののすみか、草原文化など様々な価値を有し、私たちは草原からの恵みを様々な形で受けている。

##### ○草原の現状と保全に向けた取り組み

—草原面積の減少や草原維持管理の担い手不足など、阿蘇の草原は危機的な状況にある。  
—草原を守っていくために、多くの人々が様々な形で行動していくことが必要となっている。

#### ■学習のねらい（案）

①阿蘇の草原に興味を持つ。

②身近にある草原を好きになる。

③草原維持のしくみと草原環境を知る。

④草原と自分たちのくらしや産業とのかかわりを知る。

⑤草原の危機を知る。

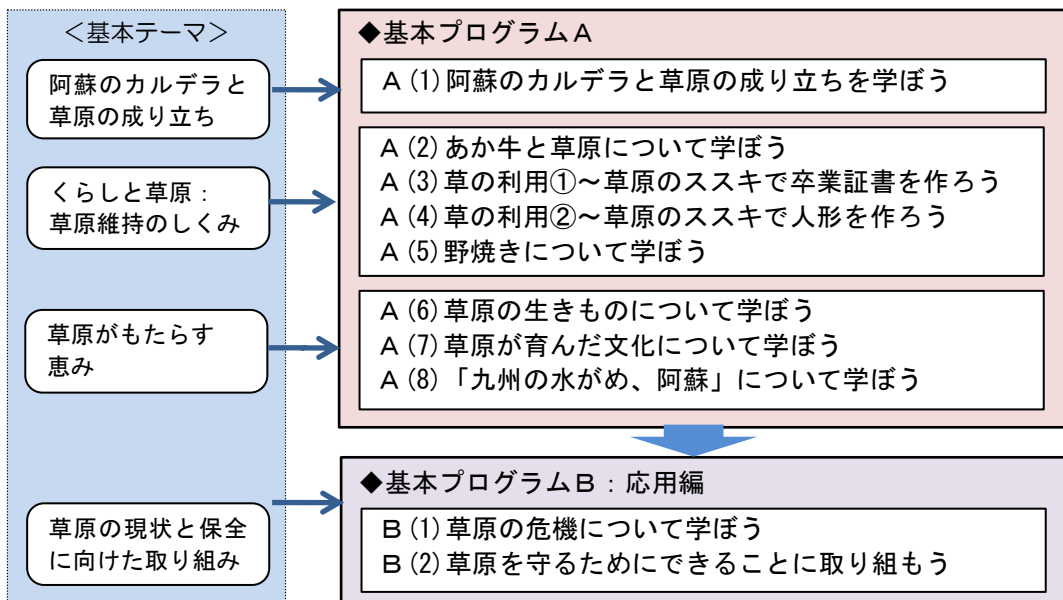
⑥草原を守るための取り組みを知る。

⑦草原を守るために自分たちにできることを考え、行動する。

自分たちが暮らす地域や阿蘇に誇りを持つ

この学習の基本テーマ（案）を踏まえて、草原環境学習の基本プログラム（案）を10種、それぞれ5～6時間（コマ）程度で実施できるパッケージとして作成しています。10種のうち、A(1)～A(8)は自由に選んで学習をスタート、Bの2種は応用編として、草原の恵みなどある程度阿蘇の草原について理解した上で学習することを想定しています。

#### ■基本プログラム（パッケージ案）



## 2. 実践事例の紹介

### (1) 個別プログラムの事例

平成 21 年度から阿蘇草原キッズ・プロジェクトとして、各学校が実践した草原環境学習プログラムの事例を、関連する基本プログラムのテーマ別に紹介します。

#### <掲載事例一覧>

関連する基本プログラムのテーマ	事 例	実施校
A(1)阿蘇のカルデラと草原の成り立ちを学ぼう	①阿蘇から連想するもの～実際に見てみよう！（現地観察会）	阿蘇市 碧水小学校5年生
	②専門家に聞いてみよう！	阿蘇市 碧水小学校5年生
A(2)あか牛と草原について学ぼう	③あか牛とのふれあい学習	阿蘇市 宮地小学校5年生 阿蘇市 古城小学校4年生
	④あか牛について学ぼう！（ルデー号見学、阿蘇の畜産を学ぶ）	阿蘇市 坂梨小学校4年生
	⑤あか牛について学ぼう！（肥育牛の見学）	阿蘇市 坂梨小学校4年生
A(3)草の利用①～草原のススキで卒業証書を作ろう	⑥草原のススキで卒業証書を作ろう	阿蘇市 中通小学校5・6年生
A(4)草の利用②～草原のススキで人形を作ろう	⑦自分たちにできることを実践しよう！ 草の人形（フクロウ）づくり	阿蘇市 碧水小学校6年生
A(5)野焼きについて学ぼう	⑧野焼きについて学ぼう（事前学習、野焼き体験）	阿蘇市 宮地小学校5年生 阿蘇市 古城小学校5年生 阿蘇市 山田小学校4年生
A(6)草原の生きものについて学ぼう	⑨オオルリシジミの学習	南阿蘇村 白水小学校3年生
	⑩りんどうヶ丘の草原で見つけよう！	南小国町 りんどうヶ丘小学校4年生
A(7)草原が育んだ文化について学ぼう	⑪草小積みを作ろう！	阿蘇市 宮地小学校5年生 阿蘇市 古城小学校4年生
A(8)「九州の水がめ、阿蘇」について学ぼう	⑫「九州の水がめ、阿蘇」について学ぼう	阿蘇市 古城小学校5年生
B(1)草原の危機について学ぼう	⑬自分たちに何ができるか考えよう	阿蘇市 碧水小学校6年生
B(2)草原を守るためにできることに取り組もう	⑭自分たちにできることを実践しよう！ 「草原のごみ拾い」	阿蘇市 碧水小学校6年生
	⑮自分たちにできることを実践しよう！ 「草原保全に向けたPR活動」	阿蘇市 碧水小学校6年生

## 1

## 阿蘇から連想するもの～実際に見てみよう！（現地観察会）

実施校：碧水小学校（阿蘇市）5年生 ※H23年度モデル校プログラムより

## ■実施概要

碧水小学校の5年生は、阿蘇の草原について学習を進める第1段階として、草原や火口の見学を行いました。

まず、学習の導入として、「阿蘇」について子どもたちが現時点で持っているイメージを把握するとともに、自然環境や祭事といった阿蘇の風物をスライドで視聴。つづく現地観察会では、専門家の解説により草原や火口を体験。これらの学習を通して、阿蘇や火山についてもっと知りたいと思うことや疑問が出てきました。

## ■学習のねらい

- ・阿蘇の自然を写したスライドを見て興味をもったことについて、実際に見てみる。
- ・阿蘇の自然を目の当たりにして、火山や草原、動植物に興味・関心を持つ。
- ・火山や草原、その他の自然についてもっと知りたい、調べたいという気持ちになる。

## ■学習の流れ

## ①教室内学習（導入学習）－45分（1コマ）

## 阿蘇から連想するもの

10月4日（火）14:20～15:05

- ・阿蘇に関するイメージ出し（イメトレ）
- ・スライドで阿蘇の風物を視聴
- ・現地で確かめたいこと、知りたいこと

## ◇「阿蘇」のイメージなど

- ・子どもたちが現時点で持っている阿蘇のイメージ把握
- ・スライドで阿蘇の自然や歴史に関する写真を視聴
- ・実際に自分の目で確かめたいこと、知りたいことを事前に考えた。



## ②野外体験学習－170分（4コマ）

## 実際に見てみよう！（現地観察会）

10月21日（金）8:40～12:30

（活動テーマと講師）

- ・活動(1)米塚下園地で草原観察：阿蘇自然環境事務所／木部直美
- ・活動(2)草千里の見学：阿蘇火山博物館／池辺伸一郎館長
- ・活動(3)中岳火口の見学：同上
- ・活動(4)ふりかえりとまとめ

8:40 校庭に集合（あいさつ、今日の予定）

8:50 学校を出発（スクールバス2台）

9:20 米塚下園地到着

活動(1)「草原を歩いて観察」（40分）

10:30 草千里駐車場到着

活動(2)「草千里の見学」（40分）

11:20 中岳火口駐車場到着

活動(3)「中岳火口の見学」（40分）

12:00 中岳火口駐車場を出発

12:20 学校着 →教室へ移動（5分）

活動(4)「ふりかえりとまとめ」（5分）

・どんなことを感じた？感想を書こう

・これから調べてみたいことを挙げよう

12:30 終了

調べ学習へ

■実施の様子（現地観察会）

活動① 米塚下園地「草原を歩いて観察」

- ・8班(1班4～5人)に分かれて生きもの調査を行いました。  
班内で記録係、昆虫担当1人、哺乳類や鳥類担当1人、植物担当2人を分担。各班に画板とルーペを配り、それぞれの分類ごとに、出てきた種数を紙に記録しました。



<子どもたちが見つけたもの>

班	昆虫	植物	ほ乳類・鳥	生きものつながりなど
1班	6種	7種	5種	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アゲハチョウの幼虫が葉を食べていた。</li> <li>・生きものの内臓をアリが食べていた。</li> <li>・生きものの死骸にアリが群がっていた。</li> <li>・クモが小さな虫を食べていた。</li> <li>・アケビを食ったフンがあった。</li> <li>・植物の実を鳥が食べフンを出す、種が落ち、芽が出て成長する、その繰り返し。</li> <li>・イモムシが葉っぱを食べていた。</li> <li>・イタチみたいな動物がいた。</li> </ul>
2班	19種	12種	5種	
3班	8種	4種	4種	
4班	5種	5種	3種	
5班	16種	43種	13種	
6班	?種	11種	4種	
7班	15種	37種	12種	
8班	6種	8種	4種	



活動②「草千里ヶ浜の見学」：池辺伸一郎館長による解説

- ・駒立山まで往復するなかで、カルデラとクレーターの違い、噴火口のこと、放牧や草千里の植物などについて、質問を交えながら解説していただきました。



活動③「中岳火口の見学」：池辺伸一郎館長による解説

- ・中岳火口見学に行く前に、火山ガス警報器や一時避難所を見学し、ガスが流れてきたときはタオルで口をふさぐことなど、安全管理について学びました。
- ・湯だまりを見学し遊歩道を一周して火口の地形、火山の地層などについて学習しました。



■成果など

- ・草原での動植物観察や火口見学と盛り沢山の内容だったが、阿蘇に住んでいても知らないことがたくさんあることがわかり、その後の草原の学習を進める上で効果的な学習になった。
- ・専門家による解説は、子どもたちへの質問を交えながらわかりやすく進められ、草原や火山に対する興味が高まった。

\*留意点\*

- ・中岳火口周辺は火山ガス発生により避難警報が出ることがあります。火山ガスに対する準備、警報が出た際の対応など事前に確認しておきましょう。
- ・野外での学習は天候に左右されるので、雨の場合の予備日を設定したり、雨天の場合の代替活動を準備したりすることが必要となります。

## 2

## 専門家に聞いてみよう！

実施校：碧水小学校（阿蘇市）5年生 ※H23年度モデル校プログラムより

## ■実施概要

碧水小学校の5年生は、現地観察会で火山や草原を見てもっと知りたいと思ったことを文献などで調べ学習をしました。調べてもわからなかったことや、さらに浮かんできた疑問を抽出して、6名の専門家の方々に質問を投げかけ、講義をしていただきました。

火山や動植物、牛など6つのテーマ別に班に分かれて、それぞれ講師の方から子どもたちの疑問に答えていただき学習を深めることができました。

## ■学習のねらい

- ・調べ学習や専門家の話を聞くことを通して、阿蘇の自然について興味・関心を持ち、もっと知りたいという気持ちになる。
- ・子どもたちにとって身近にある阿蘇の草原が、さまざまな生きもののすみかになっていることを知る。

## ■学習の流れ

現地観察会（平成23年10月21日実施）

①教室内学習－45分×3回（3コマ）

## 疑問や興味があることについて調べ学習

- ・調べたいことを列挙（班を作る）
- ・文献による調べ学習（図書館を活用）

- ・10月26日：それぞれの興味に従って8つの班を作り、調べたいことを列挙（1コマ）
- ・12月19日、12月20日：文献を使って班ごとに調べ学習→調べてもわからないことや疑問を専門家へ質問（各1コマ、計2コマ）

②教室内学習－100分（2コマ）

## 専門家に聞いてみよう！

1月20日（金）10:45～12:25（2コマ）  
（テーマと講師）

- ①「火山のでき方等」（14名）池辺伸一郎館長
- ②「火口や火山ガス」（7名）：須藤靖明先生
- ③「哺乳類・鳥類」（5名）：中園敏之先生
- ④「植物」（3名）：稲益親義先生
- ⑤「昆虫」（3名）：寺崎昭典先生
- ⑥「牛」（3名）：市原啓吉組合長

- 10:45 講師の紹介。今日の学習の進め方説明。  
11:00 班に分かれて専門家のお話を聞く（1時間10分）  
・子どもたちの疑問に講師が答えるかたちで進行。  
・時間内に答えが見つからないことは、調べ方を講師が子どもたちに伝える。  
12:10 班毎の学習終了  
・各班の代表が学習の感想を発表（15分）  
12:25 終了

学習のまとめ／壁新聞作成

## &lt;実施時期&gt;

平成23年10月～平成24年1月

## &lt;実施時間&gt;①調べ学習3コマ

②専門家に聞いてみよう！2コマ

## &lt;参加者&gt;5年生（39名）、担任教諭

&lt;実施場所&gt;5年生の教室、理科室、パソコン室、家庭科室、図書室

## &lt;講師&gt;

②火口：須藤靖明先生

ほ乳類：中園敏之先生

植物：稲益親義先生

昆虫：寺崎昭典先生

牛：市原啓吉組合長

火山：池辺伸一郎館長

## &lt;準備するもの&gt;①、②ともに

（学校）ワークシート

（子どもたち）前回の学習シート、

クリップボード、筆記用具

## &lt;コーディネーター&gt;

環境省 阿蘇自然環境事務所

## ■実施の様子

### ①火山のでき方や歴史、名前の由来 (3班：計14名)



火山のでき方、阿蘇五岳や米塚などの歴史、山の年齢や名前の由来などについて、池辺館長から子どもたちに質問を投げかけながらわかりやすく説明。

### ②火口や火山ガス (1班：7名)



火口やマグマのでき方、湯だまりの大きさや色、火山ガスの成分、火山灰と地層の関係など、簡単な実験や湯だまりの湯の見本を見せながら解説。

### ③哺乳類・鳥類 (1班：5名)

コミミズクの鳴き声やヤマセミの頭の羽など、鳥の特徴や種類、生息場所、阿蘇にいない動物など、図鑑や画像を見せながら解説。



### ④植物 (1班：3名)



阿蘇に咲く花の数や育つ時期、名前の由来など、植物について子どもたちが知りたいと思っていることを、植物リストなどを見ながら学習。

### ⑤昆虫 (1班：3名)



阿蘇にしかない昆虫、昆虫の名前の由来、毒を持っている昆虫など、調べても分からなかったことをわかりやすく解説。

### ⑥牛 (1班：3名)



牛の種類、あか牛の誕生や名前の由来、牛の好きな植物と嫌いな植物の種類などについて、畜産業を営むご自身の体験も交えて解説。



## ■成果など

- ・子どもたちそれぞれの疑問や興味に対応して、6人の専門家（ゲストティーチャー）から詳しく、わかりやすく教えていただくことができた。
- ・ふりかえりのワークシート記入や発表も積極的に行われ、それぞれの疑問などの解決や阿蘇に対する関心が高まった。
- ・ここで学習したことは、次の壁新聞作成に活かすことができた。

### \*留意点\*

- ・調べ学習で出てきた子どもたちの疑問や興味をもとに、テーマごとに班分けをします。
- ・テーマごとの講義内容は、担当する講師の方々と事前に調整しておく必要があります。

事例  
3

## あか牛とのふれあい学習

実施校：宮地小学校5年生、古城小学校4年生(阿蘇市)

※H24年度ショートスクール「秋編」より

### ■実施概要

宮地小学校の5年生と古城小学校の4年生、計98名は、国立阿蘇青少年交流の家が主催するショートスクール「阿蘇の草原キッズになろう～秋編～」に参加し、秋の草原であか牛とのふれあい学習を行いました。

地元の小堀牧野の協力により、あか牛と間近にふれ合い、組合長から放牧や草原の管理について現場のお話を聞くことで、草原とあか牛への興味も高まり、楽しい野外学習となりました。

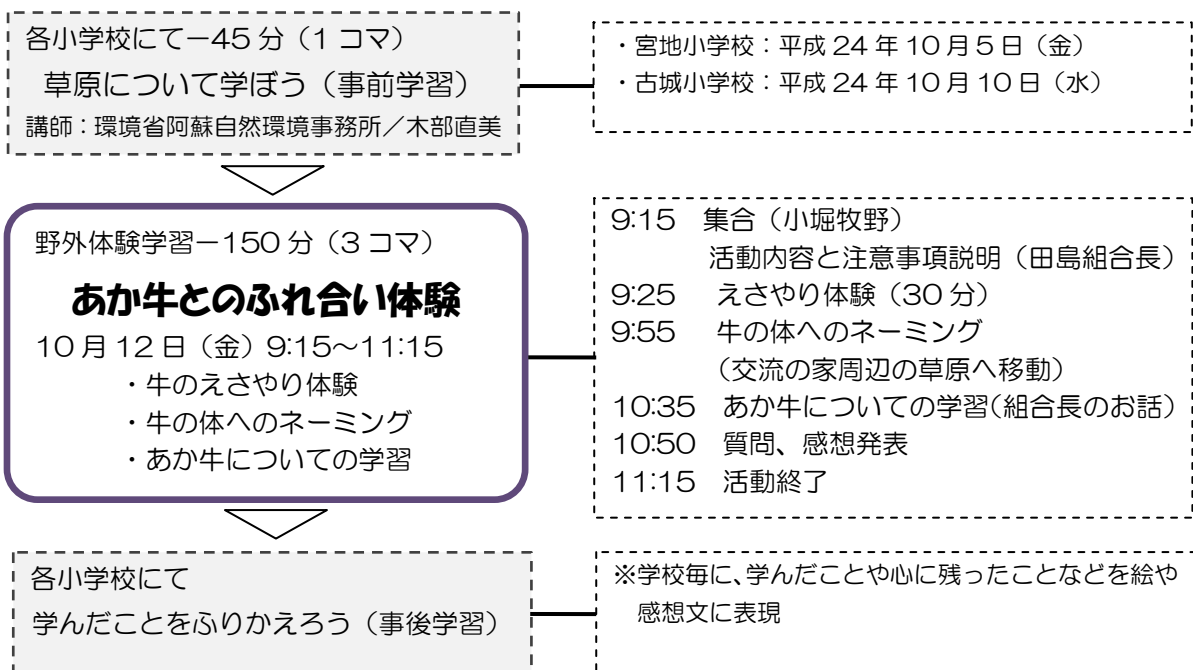
なお、ショートスクールへの参加にあたり、事前の学習で草原について基本的なことを学習し、実施後は、各学校でまとめの学習を行っています。

＜実施日＞平成24年10月12日(金)  
 ＜実施時間＞9:15～11:15(3コマ)  
 ＜参加者＞・宮地小学校5年生(82名)  
           ・古城小学校4年生(16名)  
           担任等の先生方  
 ＜実施場所＞小堀牧野、国立阿蘇青少年交流の家周辺の草原  
 ＜講師＞小堀牧野組合 田島今朝信組合長  
 ＜準備するもの＞  
 (学 校) 救急箱  
 (子どもたち) 長靴、動きやすい服装、帽子、水筒、筆記用具、クリップボード、活動のしおり  
 (主催者) みそ団子(フスマと味噌を混ぜたもの)、毛染め、刷毛  
 ＜主催・コーディネーター＞  
 国立阿蘇青少年交流の家

### ■学習のねらい

- ・身近にある草原の利用や自然について興味を持つ。
- ・草原と地域の産業や人々の暮らしとの関係を知る。
- ・草原の楽しさや素晴らしさを体感する。

### ■学習の流れ





## ■実施の様子

### ◇牛のえさやり体験

- ・牛の好物、みそ団子を差し出す子どもたち。  
大きな牛と迫力ある舌におっかなびっくりでしたが、だんだん慣れてザラザラした舌の感触を楽しんでいる様子。



### ◇牛の背中にネーミング

- ・毛染めを使って、あか牛の背中に、それぞれが考えた名前やみんなに伝えたいメッセージを書きました。



### ◇あか牛についての学習

- ・あか牛とのふれ合い体験を通して感じたことや学んだことを発表。疑問に思ったことや、興味のあることなど組合長への質問もたくさん出ました。



## ■成果など

- ・普段は入ることのできない牧場でのエサやり体験や牛の背中へのネーミングなどを通して、牛の息づかいや舌の感触等に直にふれることができ、子どもたちにとって貴重な体験となった。
- ・あか牛の放牧や飼育について学ぶ中で、草原と地域の人々とのつながりに関心が高まった。

### \*留意点\*

- ・放牧地は畜産の場で普段は立ち入りが禁止されている場所です。牧野組合の方の指導に従って行動しましょう。
- ・野外での学習は天候に左右されるので、雨の場合の予備日を設定したり、雨天の場合の代替活動を準備したりすることが必要となります。

**あか牛について学ぼう！（ルデー号の見学、阿蘇の畜産を学ぶ）**

実施校：坂梨小学校（阿蘇市）4年生

※H22年度モデル校プログラムより

## ■実施概要

坂梨小学校の4年生は、草原に関する通年学習のなかで、特に阿蘇のあか牛について学習を進めました。

阿蘇の草原は、農畜産業に利用するため長年にわたって維持管理されてきた歴史を有しており、牛や馬の飼育とは切り離せない関係にあります。ここでは阿蘇地域を代表する牛の品種「あか牛」について、そのルーツやあか牛を含む阿蘇地域の畜産の推移、牛を増やすための最近の取り組みなどについて、地元高等学校の先生や行政関係者のお話をうかがいました。

## ■学習のねらい

- ・現在のあか牛がどのようにして生まれたのか、人々の努力やその取り組みについて知る。
- ・牛や馬の飼育がどのように変化したのか、その要因や背景を知る。
- ・あか牛の飼育を含む畜産の振興のために様々な取り組みが行われていることを知る。

## ■学習の流れ

## ①校外学習 -70分

阿蘇中央高校清峰校舎

**あか牛のルーツや飼育について学ぶ  
ルデー号骨格標本見学**

11月12日（金）9:50～11:00

講師：山本孝博先生（阿蘇中央高校）

## ②教室内学習 -65分

**阿蘇の畜産について学ぶ**

11月12日（金）11:30～12:35

講師：飯星昭一氏（阿蘇地域振興局）

＜実施日＞平成22年11月12日（金）  
 ＜実施時間＞9:20～12:35（4コマ）  
 ＜参加者＞4年生（17名）、担任教諭  
 ＜実施場所＞  
 阿蘇中央高校清峰校舎、坂梨小学校  
 ＜講師＞  
 ①阿蘇中央高校 山本孝博先生  
 ＊紙資料／「牛の種類」、「褐毛和種（肥後のあか牛）の誕生」等  
 ②熊本県阿蘇地域振興局 農業普及・振興課 飯星昭一氏  
 ＜準備するもの＞  
 （学校）①,②ともに：ワークシート  
 ②のみ：プロジェクター、コンピュータ、スクリーン、  
 （子どもたち）①,②ともに  
 クリップボード、筆記用具  
 ＜コーディネーター＞  
 環境省 阿蘇自然環境事務所

9:20 集合→今日の予定について説明  
 9:30 坂梨小学校を出発（スクールバス1台）  
 ＊バス内でクイズを実施  
 9:50 阿蘇中央高校清峰校舎にて  
 ・校長先生あいさつ  
 ・山本先生のお話（45分）  
 ＊子どもたちからの質問  
 ・ルデー号骨格標本の見学（10分）  
 11:00頃 阿蘇中央高校清峰校舎出発  
 11:20 坂梨小学校着  
 ＊トイレ休憩（10分）  
 11:30 坂梨小学校教室  
 ・飯星さんのお話（45分）  
 ＊子どもたちからの質問  
 12:35 終了

## ■実施の様子

～阿蘇中央高校清峰校舎にて～

### ◇あか牛についてのお話

- ・山本先生には、ご自身の草原や牛との関わりや高校生による飼育学習のことを交えながら、牛の種類、阿蘇のあか牛誕生の歴史、牛の飼育や経済的な側面などについてお話いただきました。
- ・子どもたちから、「昔の牛はあか牛も黒牛も小さかったのか」、「なぜ外国種はでかいのか」、「牛と馬ではどっちが成長が早いか」といった質問が出されました。



### ◇ルデー号の骨格標本の見学

- ・子どもたちは、ルデー号の骨格標本を見て、その大きさを実感。体格の大きい子が標本の前に立って背比べするなど興味津々でした。



～坂梨小学校の教室にて～

### ◇阿蘇の畜産について

- ・飯星氏は、牛の特徴、飼育農家や頭数に関する過去から現在のデータなどについて、パワーポイントを使って説明。
- ・「あか牛は急な斜面で転んだりするのか」、「血液型はあるのか」、「他の動物に襲われたりしないのか」といった質問がありました。



## ■成果など

- ・清峰校舎へ向かうバスの中で行った牛に関するクイズは、講師の方々のお話を聞く前にあか牛への興味を高めるために効果的だった。
- ・清峰校舎では、ルデー号の骨格標本はインパクトがあったが、今回は口蹄疫の関係で清峰校舎の畜舎見学ができなかったのが残念だった。
- ・山本氏による子牛の生まれる日の計算方法や、飯星氏の学習で昔使っていた牛の鞍や鍬を見せてもらったことは、子どもたちの興味を引きつけるのに効果的で、草原と人々のくらしやかつての牛の使われ方などへも関心を広げることができた。
- ・一方で、全体の学習に占めるお話の時間が長すぎて、子どもたちが消化しきれなかったのではないかと感じた。座学だけでなく、体験的な内容が組み合わさっているとさらに効果的だった。



### \*留意点\*

- ・講義は専門用語が多くなって難しくなりがちです。内容をあまり難しくせず、学習のポイントを明確にして講師の方々と調整した上で実施することが大事です。

## 5

## あか牛について学ぼう！（肥育牛の見学）

実施校：坂梨小学校（阿蘇市）4年生

※H22年度モデル校プログラムより

## ■実施概要

坂梨小学校の5年生は、これまで草原に放牧されているあか牛とのふれあい体験学習や、阿蘇地域を代表する牛の品種「あか牛」のルーツなどについて学んできました。

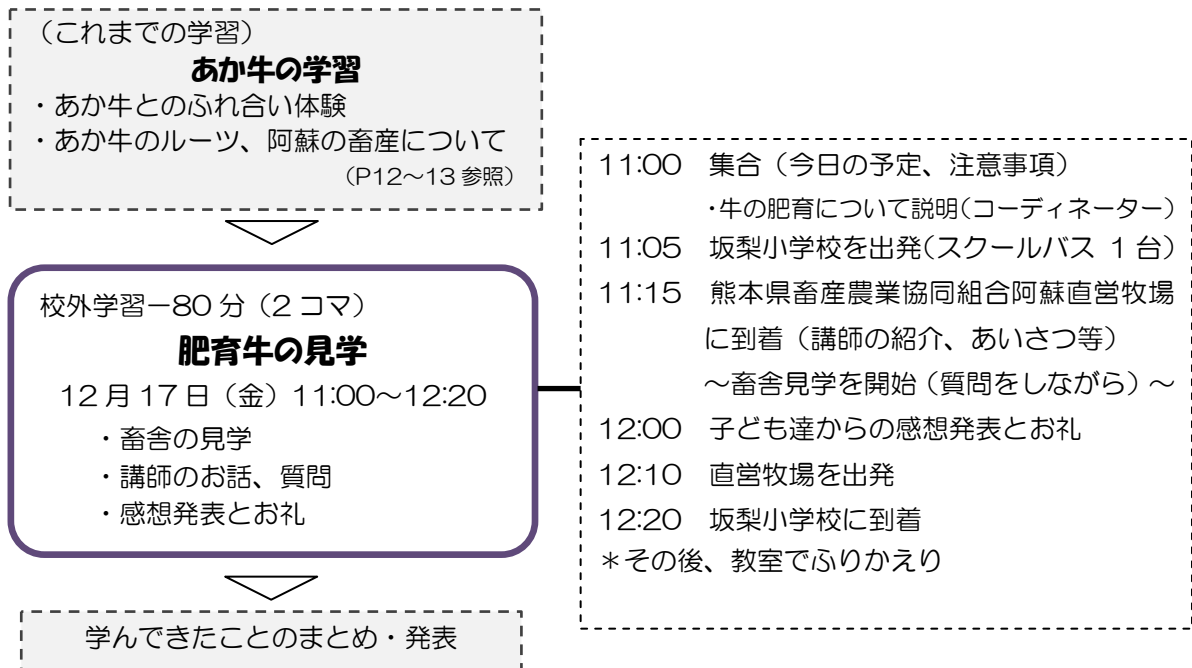
この活動では、牛の肥育の様子を見学し、草原にくらす母牛から生まれた子牛を肉牛として肥育するという、阿蘇の畜産の流について学びました。

また、現場の方から牛を飼育する上での工夫やご苦労などのお話を聞き、畜産の仕事について学びました。

## ■学習のねらい

- ・肥育は、何のためにどのように行うのかを知る。
- ・阿蘇の畜産について、地域との関わりや外国（海外の飼料）との関わりなどを知る。
- ・肥育に関わる現場の方の工夫や苦労について知る。

## ■学習の流れ



&lt;実施日&gt;平成22年12月17日(金)

&lt;実施時間&gt;11:00~12:20 (2コマ)

&lt;参加者&gt;4年生 (17人)、担任教諭

<実施場所> 熊本県畜産農業協同組合  
阿蘇直営牧場<講師> 熊本県畜産農業協同組合 阿蘇  
直営牧場 杉谷隆徳氏

&lt;準備するもの&gt;

(子どもたち)

クリップボード、筆記用具

(学校) ワークシート、救急箱

(コーディネーター) 説明用ポスター

&lt;コーディネーター&gt;

環境省 阿蘇自然環境事務所

## ■実施の様子

### ◇牛の肥育について説明

- ・出発前にコーディネーターより、子牛が生まれ、市場で売り、その牛を肥育して食卓に上るまでの流れについて、説明用ポスターを使って説明。

### ◇肥育をしている畜舎の見学

- ・あか牛や黒牛などがある畜舎内の見学。エサ（地元のワラ、外国産の干草や濃厚飼料）のことや牛の体重や性格、育てる上で気をつけていることなど、杉谷氏に質問をしながら畜舎内を見て回りました。
- ・特別に許可をいただき、牛に触れることもできました。

### ◇感想とお礼

- ・杉谷さんから牛を育てる上での思いなどをお話いただき、子どもたちからは、見学の感想や疑問に思ったことなどを発表し、お礼の気持ちを伝えました。

#### ☆杉谷さんより

- ・あか牛が増えてくれることが一番の願い。
- ・あか牛と黒牛を両方飼ってみて、あか牛の方がおとなしくて病気になりやすく育てやすい。農家の皆さんにもあか牛の良さを見直してもらとうれしい。

#### ☆子どもたちの感想より

- ・あか牛は黒牛よりおとなしいし、育てやすいのでいいと思った。
- ・肥育牛になるのは悲しいけど、そういう牛がいるから自分たちが生きているんだな、と感じた。
- ・黒牛も、ちょっとおとなしいと思った。
- ・牛の性格は荒いと思っていたけど、おとなしかった。
- ・畜舎に入ると牛が近づいてきて、かわいいと思った。

## ■成果など

- ・子どもたちからの様々な質問にわかりやすく答えていただいたので、牛や肥育についてしっかりと学ぶことができた。
- ・肥育牛については子どもたちから「かわいそう」という反応が強く出る可能性も考えられたが、事前学習をしていたこともあり、繁殖牛と違って太らせるように育てられ、やがて殺され食べられるその運命に対して、大きな抵抗感はみられなかった。
- ・杉谷さんの「あか牛は飼いやすい。飼う人が増えるといい。」というお話を通して、杉谷さんのあか牛への思いが子どもたちに伝わったことが感じられた。

#### \*留意点\*

- ・口蹄疫の発生以降、肥育牛の見学は難しくなっています。受入側とよく調整をして、可能な範囲で活動を行うようにしましょう。
- ・畜舎内では講師の方の指導に従い行動しましょう。



## 6

## 草原のススキで卒業証書を作ろう

実施校：中通小学校（阿蘇市）5・6年生

## ■実施概要

中通小学校の5年生と6年生は、「草原を守るために自分たちができること」として草原のススキを使った紙漉きに取り組みました。

導入学習で、草原の利用が減っていることや、草原を守っていくために、草を使うことが大事であることを学んだ上で、身近な牧野へ出かけて紙の原料に使うススキの刈り取りを行い、紙漉きを体験しました。できた野草紙は、6年生の子どもたちに卒業証書として手渡されました。

## ■学習のねらい

- ・草原を守るために自らができることに取り組む。
- ・草原の草を原料にして紙ができることを体験的に知る。
- ・手を動かして、ものをつくりだすことの楽しさを知る。

## ■学習の流れ

## ①教室内学習－45分（1コマ）

## 事前学習

9月24日（月）14:25～15:10

- ・阿蘇の草原の素晴らしさや草原の現状について学習（次の学習の動機づけ）

担任教諭により事前学習

- \* 草原環境学習導入DVDを視聴（約10分）
- \* 紙芝居を使って、草原の危機について学ぶ

## ②野外体験学習－175分（4コマ）

## 草原の草を刈ろう

10月3日（水）9:25～12:20

- ・地元牧野で、紙すきの原料となるススキの刈り取りと草原の自然観察

9:25 集合、→スクールバスで木落牧野へ

10:00 木落牧野で活動開始

- ・甲斐組合長のお話
- ・ススキ刈りと葉の選り分け作業

11:00 草原での自然観察

11:40 牧野を出発

12:20 中通小学校到着、活動終了

## ③教室内学習－100分（2コマ）

## 卒業証書の紙を漉こう

11月5日（月）14:20～16:00

- ・自分たちが刈ったススキを原料として、紙漉きに取り組む

野草紙の紙漉き

- \* あいさつ、紙漉き手順の説明
- \* 紙漉き（6年生/A3版、5年生/A5版）
- \* 終了→後片づけ、集合写真撮影

&lt;実施時期&gt;平成24年9～11月

&lt;実施時間&gt;①事前学習 1コマ

②野外体験学習 4コマ

③紙漉き体験 2コマ

&lt;参加者&gt;5年生（2名）、6年生（4名）、担任教諭

&lt;実施場所&gt;中通小学校、木落牧野

&lt;講師&gt;木落牧野組合 甲斐組合長

&lt;準備するもの&gt;

（子どもたち）①、②ともに：クリップボード、筆記用具

（学校）①②ともに、ワークシート

①DVDと映写機材

②救急箱、草刈りカマ、ビニール袋、軍手

③長机、雑巾、延長コード

（主催）③紙漉き機材一式、説明用パネル、ブルーシート

（協力者）スケッチブック、ルーペ

&lt;主催・コーディネーター&gt;

NPO法人九州バイオマスフォーラム

&lt;協力&gt;環境省 阿蘇自然環境事務所

## ■実施の様子

### ◇地元牧野で野草紙の原料となるススキ刈りと自然観察



各自一握り程度のススキを刈り取り。その後、紙の原料にする柔らかい葉の仕分け作業も行いました。

牧野組合長から、草原の利用や管理についてお話を聞きました。



アクティブ・レンジャーと一緒に、広々とした草原で植物や生きもの観察。

### ◇ススキを原料に使って紙を漉く

2人ペアで協力して、紙を漉き、水切りをして乾燥させるという工程を進め、味わいのある紙が出来上がりました。



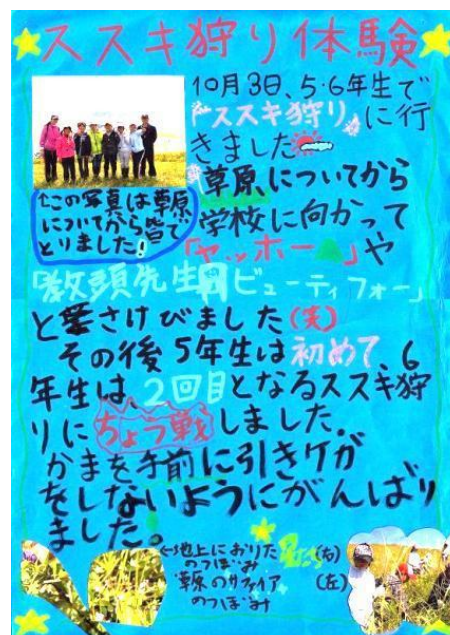
出来上がった野草紙は卒業証書や作品づくりに使いました。

## ■成果など

- ・身近に草原があっても、行ったことがない子どもたちがほとんど。北外輪山上の牧野から中通小学校を見つけたり、草刈り作業や動植物を観察したりする中で、豊かな草原を体感することができた。
- ・草刈りでカマを使い、紙漉きの道具を使って協力しながら作業をする過程で、もの作りの楽しさを実感できた。

### \*留意点\*

- ・牧野を利用させてもらう場合は、組合の方の指導のもと、荒らさないように気をつけましょう。
- ・当日、講師として協力していただく方とは、事前に活動やお話の内容を調整しておきましょう。



## 自分たちができることを実践しよう！草の人形(フクロウ)づくり

実施校：碧水小学校（阿蘇市）6年生

※H23年度モデル校プログラムより

## ■実施概要

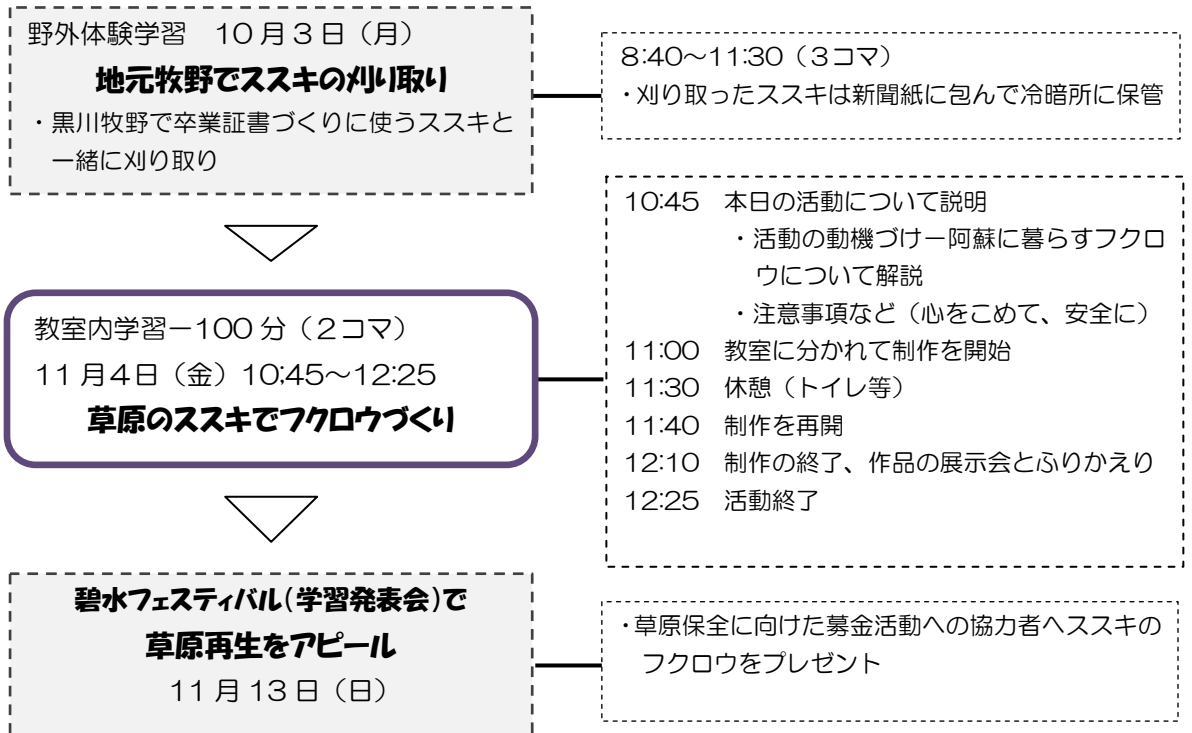
草原の草を利用することが草原保全につながることを学んだ子どもたちが、「草原を守るために自分たちができること」として、草原の草（ススキ）を使った人形づくりに取り組みました。

出来上がったフクロウは、後日開催された碧水フェスティバル（学習発表会）の中で行った草原再生の募金活動への協力者へのお礼として配られました。

## ■学習のねらい

- ・草原を守るために自らができることに取り組む
- ・草原の草が材料となって、人に役立つものができることを体験的に知る
- ・手を動かして、ものをつくりだすことの楽しさを知る

## ■学習の流れ



＜実施日＞平成23年11月4日（金）  
 ＜実施時間＞10:45～12:25（2コマ）  
 ＜参加者＞6年生（29名）、担任教諭  
 ＜実施場所＞碧水小学校教室  
 ＜講師＞担任教諭、環境省阿蘇自然環境事務所 木部直美、NPO 法人九州バイオマスフォーラム 吉田園子  
 ＜準備するもの＞  
 （子どもたち）はさみ、フクロウの目（学校）救急箱、新聞紙、ごみ袋、輪ゴム（コーディネーター）フクロウ制作シート、ススキ（事前に子どもたちが刈り取っておいたもの）、タコ糸、グルーガン、園芸用ビニタイ、ヒマワリの種  
 ＜コーディネーター＞  
 環境省 阿蘇自然環境事務所



## ■実施の様子

### ◇阿蘇に暮らすフクロウについて学ぶ

- ・阿蘇に生息する6種類のフクロウのうち「フクロウ」「アオバズク」「コミミズク」についてアクティブ・レンジャーが紹介。ススキのフクロウづくりに向けて作るもののイメージが湧いてきました。



### ◇フクロウづくりに挑戦

- ・見本を見せながら、制作工程に沿って説明して、作っていました。
- ・最初は要領がつかめずに難しそうなお様子でも、何回かやり直ししながら工程が進むにつれて、形ができてきて一安心。



- ・最後に目玉とヒマワリのくちばしを付ければ、個性的なフクロウたちの出来上がり



## ■成果など

- ・子どもによって進み方に差があり、苦勞している子どももいたが、時間内に概ね2個ずつ作ることができた。
- ・ヒモをつける場所がわかりにくく、ぶら下げるとひっくり返ってしまい、何度もやり直す子どももいた。
- ・これらのフクロウの人形は、同月に行われた学習発表会（碧水フェスティバル）の会場で草原再生の募金をお願いする際に、募金をいただいた方に差し上げるという目的があり、かわいらしいフクロウが出来上がり子どもたちは満足げだった。

### \*留意点\*

- ・ススキは、刈り取った後すぐに使わない場合は、穂が開かないように新聞紙に包んで冷暗所に保管しましょう（ビニールに入れるとカビが発生します）。
- ・作業工程が何段階もあるため、工程毎の見本を作っておくとわかりやすいでしょう。

## 8

## 野焼きについて学ぼう(事前学習、野焼き体験、事後学習)

実施校：宮地小学校（阿蘇市）5年生ら ※H23年度ショートスクール「野焼き編」より

## ■実施概要

阿蘇の草原を維持するために欠かせない作業である「野焼き」について、事前学習で学んだ上で実際に体験する。

## ■学習のねらい

- ・事前の学習により、草原を維持するために野焼きが果たす役割を知る
- ・体験によって、野焼きが危険でたいへんな作業であることを実感する
- ・体験を通して、野焼きについてもっと知りたいことや疑問を持つ
- ・炎に焼かれる枯れ草を目の当たりにし、火の力を感じる。
- ・参加者が協力して安全に野焼きを実施することを通して、共同作業の大切さを知る

## ■学習の流れ

## ①教室内学習と体験学習ー125分(3コマ)

2月16日(木)13:40~16:00

## 野焼きについて学ぼう(事前学習)

講師：町古閑牧野組合／市原啓吉組合長

## 火消し棒づくり(事前学習)

講師：阿蘇グリーンストック野焼き支援ボランティアリーダー

- ・野焼きについての基本的な情報を提供。体験に向けた準備や心構えをする。
- ・野焼き体験で子どもたちが使う火消し棒を自分たちで制作する。

## ②野外体験学習ー半日(4コマ)

## 学習劇「野焼きについて」

## 野焼き体験

2月24日(金)9:10~13:50

講師：小堀牧野組合／田島今朝信組合

- 9:10 集合(今日の予定について説明)  
→小学校をバスで出発し交流の家へ
- 9:40 開会
- 9:50 学習劇「野焼きについて」
- 10:30 集いの広場集合  
・野焼き体験
- 12:30 野焼き体験終了
- 12:40 昼食(レストランにて)
- 13:30 学校へ向けて出発
- 13:50 学校着・活動終了

教室内学習

## ふいかえり(事後学習)

ー各小学校で実施

&lt;実施時期&gt;平成24年2月

&lt;実施時間&gt;

①事前学習(3コマ)

②学習劇・野焼き体験(半日/4コマ)

&lt;参加者&gt;

①宮地小学校5年生、山田小学校4年生(計75名)、担任教諭ら

②宮地小学校5年生、古城小学校5年生、山田小学校4年生(計107名)、担任教諭ら

&lt;実施場所&gt;

国立阿蘇市少年交流の家及び小堀牧野

&lt;講師&gt;小堀牧野組合 田島今朝信組合長、阿蘇グリーンストック 野焼き支援ボランティアリーダーなど

&lt;安全管理&gt;阿蘇グリーンストック野焼き支援ボランティアリーダーなど計8名

&lt;準備するもの&gt;

①竹・ツル等火消し棒の材料(竹、ツル等)、製作に用いる道具

②火消し棒、ジェットシューター、水、救急箱等

&lt;主催・コーディネーター&gt;

国立阿蘇青少年交流の家

## ■実施の様子

### ◇火消し棒づくり

- ・ 野焼き体験に向けて、火消し棒づくりに取り組みました。
- ・ 自分で作った火消し棒を使って実際に火消しを行い、野焼きの大変さや危険性を実感しました。



### ◇劇を通じて野焼きについて学習

- ・ 野焼き体験の前には、キッズ・プロジェクトのメンバーによる野焼きをテーマとした劇を通して、これから体験する野焼きや草原の大切さを学習。



### ◇野焼き体験

- ・ 野焼き体験では、火消し棒やジェットシューターを使って消火活動を行い、野焼きの火のすごさや作業の大変さを実感。



#### ◇体験後、子どもたちの感想より

- ・ お父さんが地区の野焼きに行っていて、こういうことをしているのかと初めて知った。大きくなったら、お父さんと一緒に野焼きをして草原を守っていきたい。

## ■成果など

- ・ 中規模校である宮地小学校を含む6校、100名以上の児童が野焼き体験に参加したが、事前学習で野焼きのことや注意事項を学んだ上で野焼き体験をすることで、安全に活動が行われた。
- ・ 野焼きの道具づくりから野焼きの現場を体験したことにより、草原を守っていくための地元の人々の努力や作業の大変さを実感し、草原や草原を守ることへの関心が高まった。

#### \*留意点\*

- ・ 野焼きの実施は天候に左右されるので、雨の場合の予備日を設定したり、雨天の場合の代替活動を準備したりすることが必要となります。

## 9

## オオルリシジミの学習

実施校：白水小学校（南阿蘇村）3年生

※H24年度モデル校プログラムより

## ■実施概要

阿蘇の草原にはたくさんの野生動植物がくらしています。白水小学校では南阿蘇村の村民の蝶「オオルリシジミ」を中心に草原の学習を行いました。

事前学習でオオルリシジミについて基本的なことを学んだ上で、地元の下碓牧野へ出かけ、オオルリシジミの食草であるクララが生育する広々とした草原で野外体験学習。地元の専門家岡俊樹先生のお話を聞いた後、オオルリシジミの観察をしたりすることで、草原や動植物への興味や関心が高まりました。

## ■学習のねらい

- ・草原には牛や馬だけでなく、色々な生きものがあることを知る。
- ・生きものや草原についてもっと知りたいという気持ちになる。
- ・オオルリシジミについて学ぶ中で、草原と人との関係、そこにらす野生の生きものとの関係を知る。
- ・オオルリシジミがらす草原を大切に思う気持ちになる。

## ■学習の流れ

## ①教室にて-45分/1コマ

## 草原について学ぼう(事前学習)

5月16日(水)14:00~14:45

- ・クイズや紙芝居を交えて、草原やオオルリシジミのことを学習

&lt;導入&gt;・草原クイズ

<展開>・草原には何がいます?ワークブックで学習  
・オオルリシジミってどんなチョウ?

&lt;ふりかえり&gt;

・明日、草原にオオルリシジミを見に行くよ

## ②下碓牧野にて-150分/3コマ

## オオルリシジミを観察しよう!

5月18日(金)9:30~12:00

- ・地元の牧野で、オオルリシジミや草原の生きもの観察

9:30 集合(あいさつ、今日の予定について説明)

9:40 小学校を出発(村のバスで下碓牧野へ)

10:00 「オオルリシジミを観察しよう!」

11:20 活動のふりかえり

11:40 牧野を出発

12:00 学校に到着・活動終了

## ③教室にて-45分/1コマ

## 学んだことをふりかえろう(事後学習)

5月21日(月)9:35~10:20

- 草原新聞やスケッチブックを使ってふりかえり、専門家への質問

&lt;導入&gt;・草原新聞を使ってふりかえり

&lt;展開&gt;・質問タイム

&lt;ふりかえり&gt;

・スケッチブックを使って全体のふりかえり

・児童から3日間の学習の感想発表

■実施の様子

◇事前学習

- ・クイズやワークブック「牛や馬の放牧」(P6,7)を使って、草原にいる生きものや、オオルリシジミについて基本的なことを学習。

◇草原に行ってオオルリシジミを観察

- ・地元の下積牧野へ出かけ、オオルリシジミの食草であるクララが生育する広々とした草原で自然観察。



阿蘇の草原ワークブック P6, P7



クララについてのオオルリシジミの卵を見つけて興味津々



草原ビンゴで、草原の生きもの探し。見つけた植物や生きものを発表。

■成果など

- ・全体的に、写真や絵など視覚的な教材を多く使ったため、低学年の子どもたちにもわかりやすく楽しく学習できた。
- ・ワークブックを使った事前学習は、子どもたちの興味を高めるのに効果的だった。
- ・観察会では、ビンゴゲームはビンゴの項目に沿って生きものを探すことで、観察の視点をもちやすかった。また、後のふりかえりで思い出すのにも役に立ち、事後学習ではたくさんの質問が出た。
- ・子どもたちの感想からは、専門家のお話やオオルリシジミの観察などを通して、身近にある自然を大切にする心が育まれたことが感じられた。

\*留意点\*

- ・低学年の場合、ワークブックや草原新聞を使った学習では、漢字を読むことに一生懸命になって内容の理解までいかない場合もあります。読み聞かせるやり方もあります。
- ・事後学習では、講師の方へ事前に質問をお渡しできれば、あらかじめ回答を準備いただき、より学習を深めることができます。そのために、事後学習の前に1時間ふりかえりをして質問を整理しておくことが考えられます。

## りんどうヶ丘の草原で見つけよう！

実施校：りんどうヶ丘小学校（南小国町）4年生

## ■実施概要

りんどうヶ丘小学校は、草原に囲まれた学校です。その環境を活かして、4年生が年間を通して草原の学習を行いました。春には、野焼きについて学んだ上で、校舎周辺の草原で春の植物調べを行いました。

身近にある草原で動植物を観察したり、その草原と地域の人びととの関係を学んだりすることを通して、りんどうヶ丘の草原を大切に思う心を育むことが目標です。

## ■学習のねらい

- ・ワークブックの学習を通して、野焼きが草原に与える効果について知る。
- ・草原での発見や観察を通して、草原環境に対する興味や関心を持つ。
- ・草原には色々な生きものがすんでいることがわかる。
- ・同じ場所や植物を観察しても人によって発見は様々。それぞれが異なる感じ方や視点を持っていることがわかる。

## ■学習の流れ

①教室内学習—45分（1コマ）

**野焼きの学習（導入）**

10:45～11:30

草原ワークブックを使って学習

②野外学習—50分

**活動(1) 歩きながら探してみよう****活動(2) りんどうヶ丘の植物を調べよう**

11:35～12:30

教室内学習— 学習の後、先生が実施

**学んだことをふりかえろう**

- ・活動の感想を書こう
- ・疑問を書きだしておこう

&lt;実施日&gt; 平成24年5月24日(木)

&lt;実施時間&gt; ①教室内学習 1コマ

②野外体験活動 1コマ

&lt;参加者&gt; 4年生(8名)、担任教諭

&lt;実施場所&gt; りんどうヶ丘小学校及び学校に隣接した草原

<講師> 環境省阿蘇自然環境事務所  
木部直美

&lt;準備するもの&gt;

(子どもたち) ①②筆記用具、②クリップボード

(学校) ②救急箱

(講師) ①草原ワークブック、紙芝居(クイズ)

②ルーペ、ワークシート

&lt;コーディネーター&gt;

環境省 阿蘇自然環境事務所

10:45 あいさつと今日の予定

10:50 草原ってなんだろう?～草原クイズ～

11:00 ワークブック(2～5頁)を使って野焼きの学習

11:30 (休憩) 野外に行く準備、トイレ

11:35 活動(1)「歩きながら探してみよう」

11:50 活動(2)「りんどうヶ丘の植物を調べよう」

・草原にある植物の中で特に気に入ったもの一つを選び、良く観察しよう(15分程度)

・観察した植物をみんなに紹介しよう!(10分程度)

12:30: 終了

## ■実施の様子

### ◇導入学習

- ・前半は教室で導入学習。「阿蘇の草原ワークブック」を使って、草原の野焼きについて学びました。



### ◇植物調べ

- ・野外学習では、校舎周辺の草原で植物調べ。それぞれ気に入った植物を選んで観察し、発見したことを発表しあいました。

## ■成果など

- ・各自ワークシートに記入した観察記録を集めて、学習の成果としてまとめた。
- ・春の草原にはいろいろな種類の花が咲いていて、その名前もわかった。
- ・それぞれ観察した花に名前をつけて、疑問に思ったことなどについて考えた。



### 子どもたちの観察記録より

- ・アザミを観察しました。ぼくがつけた名前はトゲトゲくん1号。なぜトゲトゲがあるんだろう。牛はなぜトゲがあるのかわかるのだろう、なぜ花がムラサキなんだろうと思いました。
- ・私は白くて小さい花を観察し、その花を「ホワイトフラワー」と名付けました。だけど本当の名前は「オオヤマフスマ」でした。意外な名前だなと思いました。
- ・「ウマノアシガタ」は毒があるので牛は食べません。この花はきれいな花です。
- ・オカオグルマをカントリーコースで見つけました。ぼくがつけた名前はつる花。理由は、花びらがつるつるしているからです。

### \*留意点\*

- ・阿蘇の草原では季節毎に様々な動植物が見られます。観察のポイントを示したワークシートを使うと効果的です。

事例  
11

## 草小積みを作ろう！

実施校：宮地小学校 5 年生、古城小学校 4 年生（阿蘇市）

※H24 年度ショートスクール「秋編」より

### ■実施概要

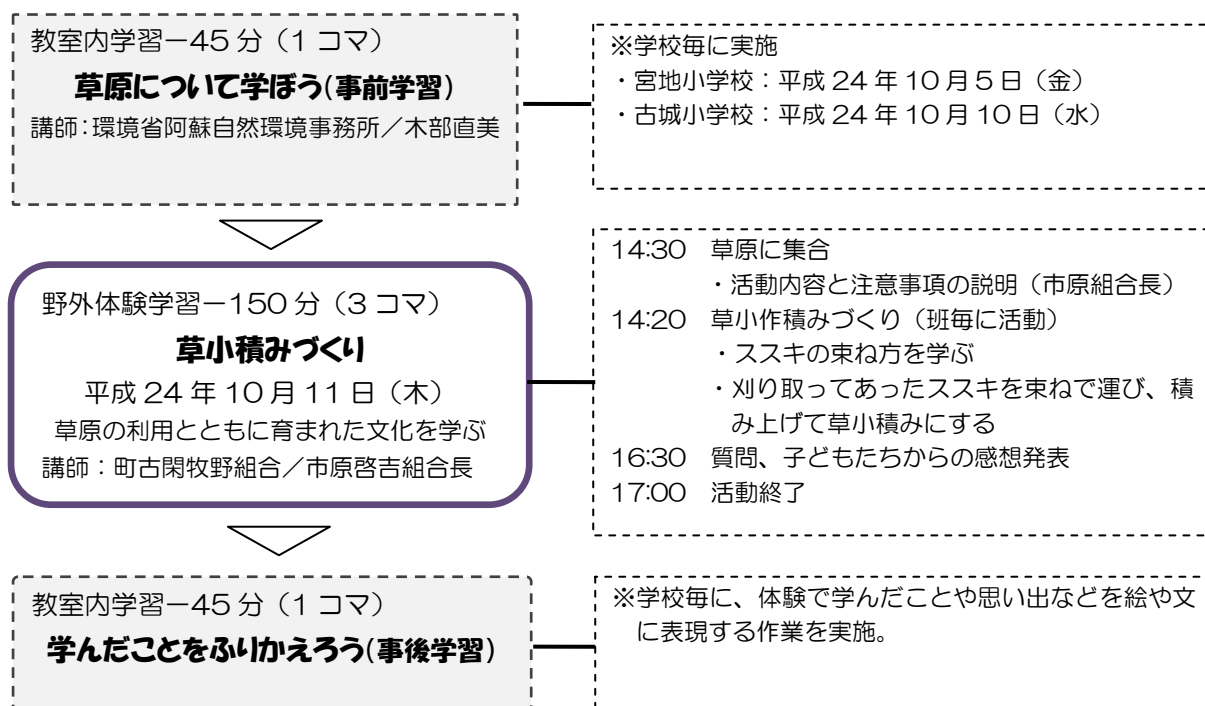
秋たけなわの 10 月、宮地小学校 5 年生と古城小学校 4 年生、計 98 名が、国立阿蘇青少年交流の家が主催する「阿蘇の草原キッズになろう～秋編～」に参加し、昔ながらの草小積みづくりを体験しました。

草原の採草作業は機械採草が主流になり、草小積みを見かけることが少なくなりましたが、草小積みづくりには、草を利用するための知恵やワザが詰まっています。草小積みづくりの体験を通して先人が培ってきた地域の文化に触れることで、草原への関心も高まりました。

### ■学習のねらい

- ・身近にある草原と地域の暮らしとのつながりを知る。
- ・草を利用するための知恵やワザを学び、草原に興味を持つ。
- ・草の利用とともに育まれた文化に触れ、身近にある草原への関心を高める。

### ■学習の流れ



<実施日> 平成 24 年 10 月 11 日（木）

<実施時間> 14:30～17:00（3コマ）

<参加者> 宮地小学校 5 年生（82 名）  
古城小学校 4 年生（16 名）

<実施場所>

国立阿蘇青少年交流の家周辺の草原  
<講師等> 町古閑牧野組合 市原啓吉組合長、草原環境学習小委員会メンバー、交流の家ボランティア

<準備するもの>

（子どもたち）軍手、マスク、帽子、動きやすい服装と靴

（学校）救急箱

（主催者）事前の草刈り、稲手（草を束ねるのに使用）、鎌、ロープ（最後に草小積みを固定）

<主催、コーディネーター>

国立阿蘇青少年交流の家



## ■実施の様子

### ◇草を束ねる

- ・町古閑牧野の市原組合長やスタッフから、稲手を使って草を束ねる方法を伝授され、子どもたちも挑戦。繰り返すたびに徐々に上手に括れるようになりました。



### ◇草の束を運ぶ

- ・束ねた草を小積む場所まで運ぶ作業を、斜面を上り下りして何回も繰り返しました。
- ・2つの班が草小積みを作るのを、残りの2つの班も協力して実施しました。



### ◇1班に1基ずつ立派な草小積みが完成

- ・宮地小学校で3つ、古城小学校で1つ、計4つの草小積みができました。
- ・出来上がった草小積みのまわりもきれいにして作業終了。



### ◇作業体験のふりかえり

- ・作業を終えての感想を発表。体験で気がついたことや疑問について市原組合長に質問し、草原への関心が高まりました。



## ■成果など

- ・稲手を使って草を束ねる作業は、繰り返すことによって少しずつ慣れていった。また、何度も草の束を運びながら友達と協力して草小積みを作り上げることができた。
- ・最後は草小積みの廻りに落ちているススキを拾い集めるなど後片づけ作業も行うことによって、達成感と充実感を味わうことができた。
- ・牧野組合の方から草原の営みの話を聞いたり、草の束ね方などのワザを伝授してもらい、地域で引き継がれてきた草原の文化にふれることができた。

### \*留意点\*

- ・草小積みづくりは、天候に左右される作業です。事前の草刈りから草小積みづくりの当日まで数日間の天気が続くことが必要です。日程を動かすことができない場合は、雨天の場合の代替プログラムを用意しておく必要があります。

## 「九州の水がめ、阿蘇」について学ぼう

実施校：古城小学校（阿蘇市）5年生

※H24年度基本プログラム試行より

### ■実施概要

名水の里として知られる地域にある古城小学校の5年生が「九州の水がめ、阿蘇」について学習しました。

地面にしみこむ水について実験を交えながら学び、水の循環や地域のつながりについて理解するとともに、全体を通して、なぜ阿蘇が九州の水がめと呼ばれるのかについて理解することが目標です。

学習を通して、普段は何気なく使っている水の大切さや、阿蘇に降る雨と阿蘇の自然がもたらす恵みについて、気づくことができました。

### ■学習のねらい

- ・阿蘇を出発点とした水の流れについて学習し、山から海へのつながり、地域のつながりに気づく。
- ・興味や疑問をもったことについて、話し合いや調べ学習を通して、課題に取り組む力をつける。

<実施時期> 平成24年9月～10月

<実施時間>

①教室内学習（導入学習）1コマ

②教室内学習（浸透実験）2コマ

③教室内学習 2コマ

<参加者> 5年生（8名）、担任教諭

<実施場所> 古城小学校の教室

<講師>

環境省阿蘇自然環境事務所 木部直美、  
阿蘇火山博物館 森由佳

<準備するもの>

（子どもたち）①～③ともに筆記用具、  
③地図帳

（学校）①大型テレビまたはスクリーン、  
ワークシート、②雑巾

（講師）

①導入DVD、河川図

②浸透実験機材（ペットボトル、アミ、  
輪ゴム、砂利・土・砂：4種類等）  
ワークシート

③流域界図、ワークシート

<コーディネーター>

環境省 阿蘇自然環境事務所

### ■学習の流れ

①教室内学習—45分（1コマ）

#### 導入学習：九州の水がめ阿蘇とは？

9月26日（水）10:50～11:35

・導入DVDを使って学習

- ・DVDを視聴し、阿蘇の草原について概要を知る
- ・なぜ、阿蘇は九州の水がめと言われるのか
- ・阿蘇にはたくさんの雨が降る。降った雨がどこに行くのかについて考える

②教室内学習—90分（2コマ）

#### しみ込む水について考えよう

10月4日（木）8:50～10:25

・水の浸透実験

- ・降った雨がどこに行くのかについて復習
- ・地面にしみ込んだ水はどうなる？
- ・雨水と地下水、どっちがきれい？
- ・水の浸透実験（4つの班に分かれて実施）  
—用意した土の種類毎の浸透を実験（演示）  
—土の組み合わせによる浸透実験  
（予想→実験→確認）、わかったことをまとめる
- ・班ごとに発表し、わかったことの共有

③教室内学習—90分（2コマ）

#### 水によるつながりを知ろう

10月10日（水）10:50～12:25

・地図帳を使って川の水が何に使われているのかを調べる

- ・これまでの学習のふりかえり
- ・阿蘇を源とする大きな川がどこを流れていくか調べよう。その水はどんなことに使われているのだろうか。
- ・自分たちが暮らしている地域に降る雨は、川となってどの町や村とつながっているだろう

## ■実施の様子

### ◇なぜ阿蘇は「九州の水がめ」と言われるのか

- ・阿蘇にたくさん降る雨はどうか、どれ位の量の雨が降るのか、といった先生の問いかけに答えながら、水がめと呼ばれる理由について考えました。



### ◇雨水と地下水（わき水）はどっちがきれい？

- ・この問いに対する予想をスタートに、水の浸透実験を行いました。実験には4種類の土を使用。ろ過の状況を確認しました。

導入では地表を流れる水を中心に学習



#### ★実験でわかったことを発表★

- ・時間がかかるほどきれいな水が出た。
- ・土の順番によって、水が出る早さや透明度が違った。
- ・下から粒の小さい順に地層を作ったらきれいな水が出た。



実験に使った土（右から）

- ・粒が大きい
- ・粒が大きい軽い（軽石）
- ・粒が小さい重い（砂利）
- ・細かい砂



班毎に結果を予測しながら地層の組み合わせを考えて実験

### ◇阿蘇に降った雨は川になってどこへ行く？そしてその水はどんなことに使われているの？

- ・地図帳を使って、阿蘇を源流とする6つの1級河川沿いの産業を調べ、ワークシートに書きこみました。農業だけでなく工業にも水が使われていることがわかりました。
- ・阿蘇地域と周辺の都市を含む流域界図面をみんなで見ながら、山の頂が流域界となって、異なる河川に流れ込み、その河川がたくさんの人々の住む地域を流れていることを確認しました。「阿蘇はたくさんの人たちが使う水のはじまり」ということが実感できました。

## ■成果など

- ・「流域」など理解しにくい部分もあったようだが、普段あらためて考えることのない、「地域の水」について学ぶことができた。
- ・自分たちの住んでいる地域は「水のはじまり」だから、水を大切にしなければとみんな感じたようだった。

#### \*留意点\*

- ・身近な河川や湧水などと関連づけて学習すると興味がわき、理解しやすいでしょう。
- ・社会科や理科の中で水について学んだ後で、この学習に取り組むと効果的に進められます。

## 13

## 自分たちに何ができるか考えよう

実施校：碧水小学校（阿蘇市）6年生

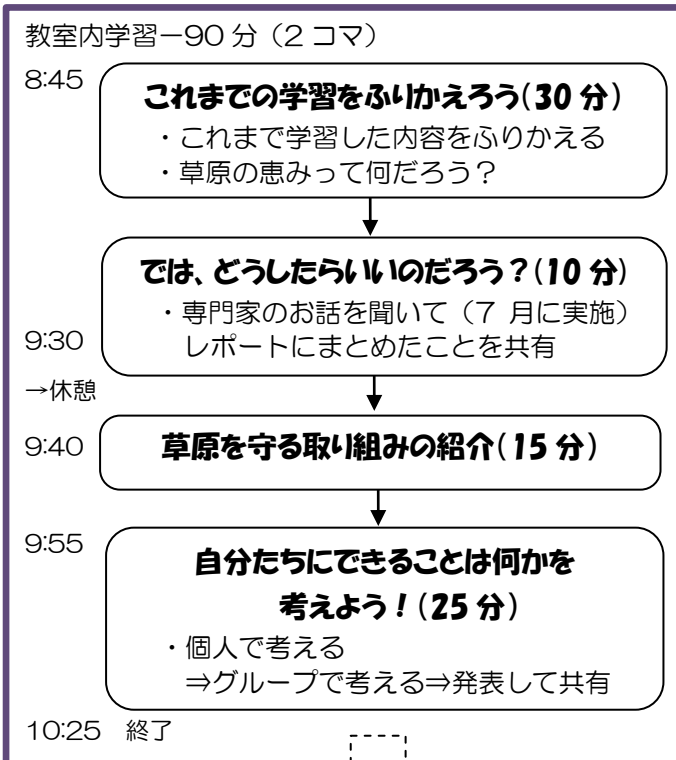
## ■実施概要

碧水小学校では、5・6年生が草原の学習を行っています。これまで阿蘇の草原について、その成り立ちや価値について学んできた6年生が、草原の危機的状況を知り、草原を守っていくために、どうしたらいいか考えました。そして、実際の行動につなげていくことを考えながら、自分たちに何ができるかアイデアを出し合いました。

## ■学習のねらい

- ・これまでの学習をふりかえり、草原の恵みや危機について思い出す。
- ・阿蘇の草原を守るためにどんな取り組みが行われているのかを知る。
- ・草原保全に向けて自分たちには何ができるのか、与えられた制約の中でアイデアを出す。

## ■学習の流れ



アイデアを整理して具体的な計画づくり

9月18日（火）14:05～14:50（1コマ）

＜実施日＞平成24年9月14日（金）  
 ＜実施時間＞8:45～10:25（2コマ）  
 ＜参加者＞6年生（40名）、担任教諭  
 ＜実施場所＞碧水小学校の教室  
 ＜講師＞環境省阿蘇自然環境事務所  
 木部直美  
 ＜準備するもの＞  
 （子どもたち）筆記用具  
 （学校）コンピューター、スクリーン、プロジェクター、ワークシート  
 （環境省）パワーポイントデータ  
 ＜コーディネーター＞  
 環境省 阿蘇自然環境事務所

草原環境学習ワークシート No. ( )月( )日  
 6年 名前( )

★今日の学習のめあて  
 これまでの学習をふり返り、草原を守るために、私たちにできることはないか考えよう。

★これまでの学習をふり返ろう！  
 <メモにどうぞ>

★草原を守るためにはどうしたらよいのだろうか？  
 <レポートにまとめたことを共有しよう>

★草原を守るために、私たちにできることは何だろうか？具体的に考えよう。  
 <私の考え>

<グループの考え>

★今日の学習をふり返ろう。(わかったこと、もっと知りたいこと、疑問、聞いたこと…)

注意！  
 1.  
 2.  
 3.

学習に用いたワークシート

## ■実施の様子

- ・草原の恵みや危機など、これまでの学習をふりかえりました。
- ・次に、地元の人々や都市の人々が草原を守っていきたいという思いで、様々な取り組みを行っていることを知り、自分たちには何ができるかを考えました。
- ・「自分たちに何ができるか」を考える際は、次の活動につなげていくため、あらかじめ制約条件を提示して、アイデアを出し合いました。  
(※アイデアを考える際の条件：時間的制約、費用の制約、実施者の制約)



**草原保全に向けて、  
こんな活動アイデアが  
出されました！**

### <子どもたちのワークシートより>

- ・草原の草を使ったものを作って、それを売って草原再生に募金する
- ・草原を守るための募金を呼びかけるポスターを作成する
- ・阿蘇の草原の良さを伝えるポスターを作成する
- ・草原の草を使った堆肥（野草堆肥）で育てた野菜を販売するお手伝いをする
- ・あか牛をもっと食べる呼びかけをする
- ・草原でごみ拾いをする
- ・草原の草を使った卒業証書をつくる
- ・草原の草を使った紙（野草紙）を使って募金箱を作る
- ・給食にあか牛を出してもらおう

## ■成果など

- ・アイデアを出す時間は短かったが、何ができるか、まず自分で考え、その後グループを作って議論しながら考えることにより、様々なアイデアが出された。

### \*留意点\*

- ・草原を守るためにできることのアイディア出しでは、子どもたちによる実施が難しい活動も出てくるので、あらかじめ条件を設定しておく、またはいったん自由にアイデアを出して、みんなで一緒に制約条件を考えた上で、実施できそうなものを精査していくと、具体的な活動につなげることができます。

**自分たちができることを実践しよう！「草原のごみ拾い」**

実施校：碧水小学校（阿蘇市）6年生

※H22年度モデル校プログラムより

**■実施概要**

碧水小学校の6年生は、5年生の秋から始めた草原環境学習の中で、阿蘇の草原が減っていること、このまま草原が減り続けると草原が持つ価値にも影響が及ぶことを学びました。

そこで、子どもたち自身が「草原を守るために自分たちにできること」は何かを考えて、いろいろ出てきたアイデアの中から、北外輪山の展望所周辺の草原に落ちたごみを拾う活動を行いました。あわせて、展望所からスケールの大きなカルデラの風景や、輪地の見学により、草原維持のための営みにも触れることができました。

&lt;実施日&gt; 平成22年11月19日(金)

&lt;実施時間&gt; 8:30~12:00(4コマ)

&lt;参加者&gt; 6年生(47人)、担任教諭

&lt;実施場所&gt; ①西湯浦の空地、②兜岩展望所、③大観峰

&lt;準備するもの&gt;

(子どもたち) 水筒、帽子、軍手、防寒具(風を通さないもの)、動きやすい靴  
(学校) 火挟み、カン拵み、救急箱  
(コーディネーター)、ゴミ袋、火挟み、  
双眼鏡

(協力者) 軽トラック(ごみ収集用)

&lt;コーディネーター&gt;

環境省 阿蘇自然環境事務所

&lt;協力&gt; 自然公園財団阿蘇支部

**■学習のねらい**

- ・草原を守るために自らができることに取り組む。
- ・自然環境や景観を守るために「ごみを捨てない」というマナーの大切さを実感する。
- ・故郷である阿蘇谷、それを囲む山々、そして草原の景観の美しさを感じる。

**■学習の流れ**

草原を守るために、自分たちが何かできるか考えてみよう！  
→アイデアだしと活動計画の作成(平成22年9月)

野外体験学習 -150分(3コマ)

**自分たちができることを実践しよう！**

11月19日(金) 8:30~12:00

- ①北外輪山・西湯浦の空地でごみ拾い(50分)
- ②北外輪山・兜岩展望所でごみ拾い(55分)
- ③大観峰で輪地の見学・ふりかえり(40分)

- 8:30 集合、今日の予定について説明  
→学校を出発(スクールバス2台)
- 9:25 西湯浦の空き地でごみ拾い活動
- 10:15 兜岩展望所へ移動
- 10:25 兜岩展望所でごみ拾い活動
- 10:40 大観峰へ移動
- 11:00 大観峰で活動(輪地見学、碧水小学校を探す、活動の感想)
- 11:40 大観峰を出発
- 12:10 碧水学校到着、終了

**学習したことを発表して、みんなに伝えよう！**

碧水フェスティバル：平成23年1月30日(日)

## ■実施の様子

### ◇西湯浦の空地と兜岩展望所でごみ拾い

- ・軽トラックいっぱい（60kg）のごみが集まりました。
- ＊ごみは自然公園財団阿蘇支部の軽トラックで収集し未来館へ持込み



### ◇大観峰では野焼きに欠かせない輪地（防火帯）を見学

- ・阿蘇谷を展望して望遠鏡で碧水小学校を探しました。



#### ◇子どもたちの感想

- ・弁当のカラなど生活ごみがあって驚いた。
- ・これ以上ごみを捨てたらいけない、山に行ったらごみを拾おうと思った。
- ・ごみがたくさんあって残念。これからはごみを見たら拾いたい。

## ■成果など

- ・子どもたちは積極的にごみ拾いの活動を行うことにより達成感を得るとともに、ごみの多さに対する疑問を感じ、マナーについて考えることができた。
- ・子どもたちの感想から、自然環境や景観を守るために「ごみを捨てない」というマナーの大切さを認識し、「ごみがあったら拾おう」という意識を持つことができたことがわかる。
- ・2ヶ所でごみ拾いと、草原や輪地の見学、各展望所からの雄大で美しい阿蘇の風景を目の当たりにして、みんなに自慢できるふるさと阿蘇を実感することができた。

#### ＊留意点＊

- ・活動する場所は、事前にごみの状況や安全性などを確認して決めましょう。また、活動場所の管理者（施設や牧野など）との事前調整が不可欠です。

## 自分たちができることを実践しよう！「草原保全に向けたPR活動」

実施校：碧水小学校（阿蘇市）6年生 ※H22年度モデル校プログラムより

## ■実施概要

碧水小学校の6年生は、阿蘇の草原について学習する中で、草原を守るために自分たちができることがないかを考え、いろいろ出されたアイデアの中からいくつかの活動を実践しました。その1つが、草原保全に向けたPR活動です。

碧水フェスティバル（学習発表会）で草原環境学習の成果を発表するとともに、手作りのフクロウやポスター、募金箱などを用意して会場で募金活動を行いながら、来場者に阿蘇の草原の素晴らしさを伝え、草原保全活動への協力を呼びかけました。

＜実施日＞ 平成23年1月30日(日)

＜実施時間＞ 9:15～15:00（碧水フェスティバル開催時間）

＜参加者＞ 6年生（47人）

＜実施場所＞ 碧水小学校講堂

＜準備するもの＞

（子どもたちが作成）

草原再生への協力を呼びかけるポスター、ノボリ、ススキのフクロウとメッセージカード、募金箱等

＜主催＞

阿蘇市立碧水小学校

## ■学習のねらい

- ・草原を守るために自らできることを考え、実際に取り組む。
- ・草原を守るために、自分たちにもできることがあることを学ぶ。
- ・協力して物事を進めることの大事さや楽しさを知る。

## ■学習の流れ

## 募金やPR活動に向けて準備

- ・草原のススキを使ったフクロウづくり
- ・ポスターや募金箱づくり

碧水フェスティバル(※1)で  
草原保全に向けたPR活動！

1月30日(日) 9:15～15:00

- ・草原について学んだことを発表
- ・募金活動（募金箱、ススキのフクロウを活用）
- ・ポスターやノボリを使って草原保全をアピール

募金活動で集まったお金を  
阿蘇草原再生協議会(※2)へ寄付

## ※1 碧水フェスティバル：

碧水小学校の児童が保護者と地域の方々を対象に学習の成果を発表するため、毎年開催されています。

## ※2 阿蘇草原再生協議会：

阿蘇の草原保全・再生に向けて様々な活動を進める団体や個人が集まり、自然再生推進法に基づき、平成17年12月に設立。かけがえのない阿蘇の草原を未来に引き継いでいくため、地元牧野組合や活動グループ、行政、研究者など多様な主体が連携・協働しながら取り組みを進めています。平成25年3月現在、234（団体・法人、個人）が参加。



## ■実施の様子

### ◇草原の素晴らしさや現状について情報発信

- ・草原について年間を通じて学習して、わかったことや感じたことを劇やクイズにして発表。児童全員や保護者、地域の方々に情報発信し、身近な阿蘇の草原に対する理解者の増加に貢献しました。



### ◇草原を守るために募金を呼びかけ

- ・手作りの募金箱やノボリを使って、フェスティバル会場で募金を呼びかけました。ススキで作ったフクロウも募金活動に一役買いました。



### ◇集まったお金は阿蘇の草原保全を支援する募金に寄付

- ・フェスティバルでの活動で集まった募金は、3月に開催された学習発表会の場で、阿蘇草原再生協議会の高橋会長に手渡されました。



あなたの気持ちで  
草原が救われる！



## ■成果など

- ・草原について学んだことをまとめ発表することを通して、草原の素晴らしさやその価値、現状などを多く人と共有することができた。
- ・学習や募金活動の成果が実際の草原保全の活動とつながることで、達成感が高まった。

### ◇子どもたちからのメッセージ「阿蘇の草原を守ろう！」

私たちは5年生の時から阿蘇の草原を学習してきて、今の阿蘇の草原は昔にくらべて減っていることが分かりました。このままでは、阿蘇にすむ生きもののすみかや植物が減り、阿蘇の自然がなくなってしまいます。そのために、草原の再生に向けて募金をしています。集まった募金は阿蘇草原再生協議会にお届けします。

### \*留意点\*

- ・草原の価値や守っていくことの必要性を認識した上で、自発的に取り組むことが重要です。
- ・目的をもってみんなで取り組むことにより、達成感や学習効果が高まります。

## (2) ショートスクール／短期宿泊型の事例

### 阿蘇の草原キッズになろう！「秋編」「野焼き編」

国立阿蘇青少年交流の家主催 阿蘇草原再生協議会 草原環境学習小委員会共催

国立阿蘇青少年交流の家では、阿蘇郡市内の小学校4年生～6年生を対象として、1泊2日の宿泊型で草原環境学習の体験プログラムを毎年2回実施しています。

10月に行う「秋編」では、草原散策やあか牛とのふれあいなどの体験学習により草原の素晴らしさや草原の営み、現状などを学習し、2月の「野焼き編」では地元牧野組合の協力による野焼き体験を通して草原を守っていくことの大変さや大切さを実感します。

ここでは、平成24年度のプログラムを紹介します。

#### ■平成24年度実施概要

<趣旨> 阿蘇の子どもたちが、阿蘇の草原環境の現状を学ぶとともに、草原維持活動の体験を通して、草原環境保全への意識を高める。

#### 【秋編】

- ・日程：平成24年10月11日（木）～12日（金）※1泊2日
- ・参加者：阿蘇市 宮地小学校5年生 82名、引率教師4名  
阿蘇市 古城小学校4年生 16名、引率教師2名
- ・場所：国立阿蘇青少年交流の家及び周辺の草原、小堀牧野、波野の草原／トラスト地（阿蘇グリーンストック管理地）
- ・講師：小堀牧野組合／田島今朝信組合長、町古閑牧野組合／市原啓吉組合長
- ・スタッフ：草原環境学習小委員会メンバー8名、ボランティア4名
- ・主な活動：あか牛とのふれあい、草原での自然観察、草小積み体験、草原環境についての学習や演習、振り返りなど

#### 【野焼き編】4校が参加。事前学習と野焼き体験をそれぞれ3回に分けて実施。

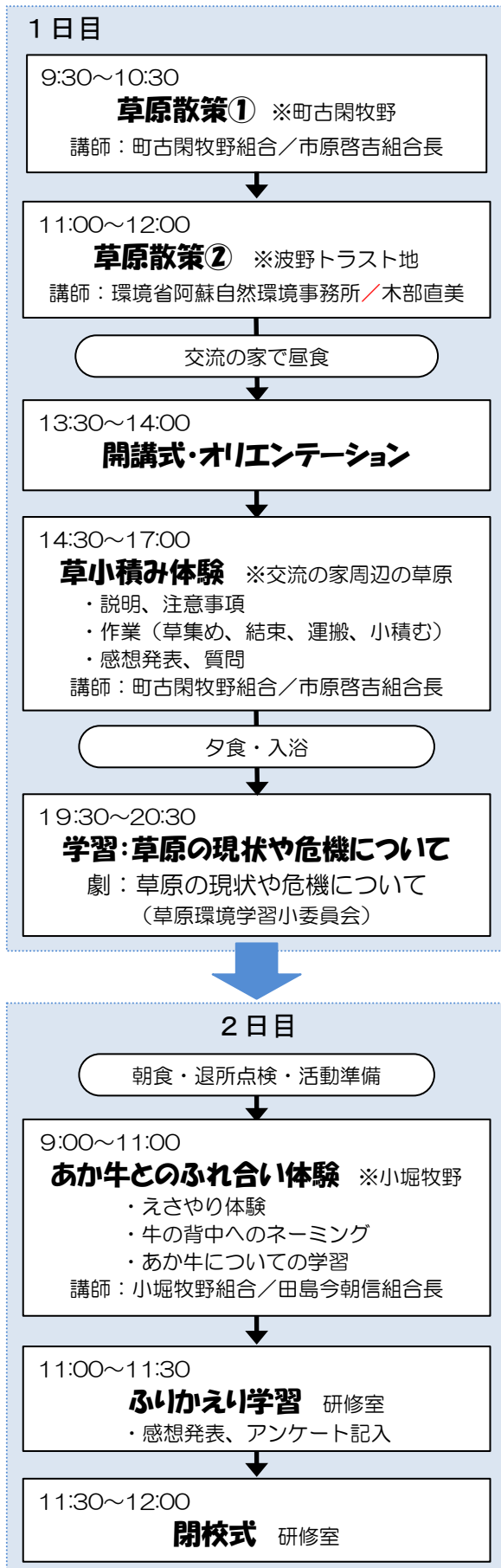
- ・日程：事前学習 平成25年2月15日、19日、20日  
野焼き体験平成25年2月22日、26日、3月5日
- ・参加者：阿蘇市 宮地小学校5年生 82名、引率教師  
阿蘇市 碧水小学校5年生 42名、引率教師  
阿蘇市 乙姫小学校5年生 11名、引率教師  
阿蘇市 坂梨小学校4年生 17名・5年生 16名、引率教師
- ・場所：国立阿蘇青少年交流の家及び周辺の草原、小堀牧野、町古閑牧野
- ・講師：小堀牧野組合／田島今朝信組合長、町古閑牧野組合／市原啓吉組合長
- ・スタッフ／安全管理：草原環境学習小委員会メンバー、野焼き支援ボランティア
- ・主な活動：野焼きについての学習、火消し棒づくり体験、野焼き体験、振り返りなど

- ◇主催：国立阿蘇青少年交流の家
- ◇共催：阿蘇草原再生協議会 草原環境学習小委員会
- ◇後援：熊本県教育委員会、阿蘇市教育委員会、阿蘇草原再生協議会
- <協力体制>
- ・国立阿蘇青少年交流の家：企画・運営・指導等
- ・草原環境学習小委員会：企画・運営・指導等
- ・牧野組合：活動フィールドの提供、体験活動の指導等
- ・（公財）阿蘇グリーンストック：学習、火消し棒づくりの指導等

#### <参考>

- 募集対象：阿蘇郡市内小学生4年生～6年生、教員、保護者
- 募集人数：秋編・野焼き編それぞれ60～80名程度
- 募集方法：阿蘇郡市内小学校への参加よびかけ
- 参加費：1300円程度（宿泊経費のみ）

## ■プログラムの概要【秋編】



町古閑牧野（箱石峠）での草原散策



波野トラスト地での草原散策



草小積みを作るために刈り取られた草を括る

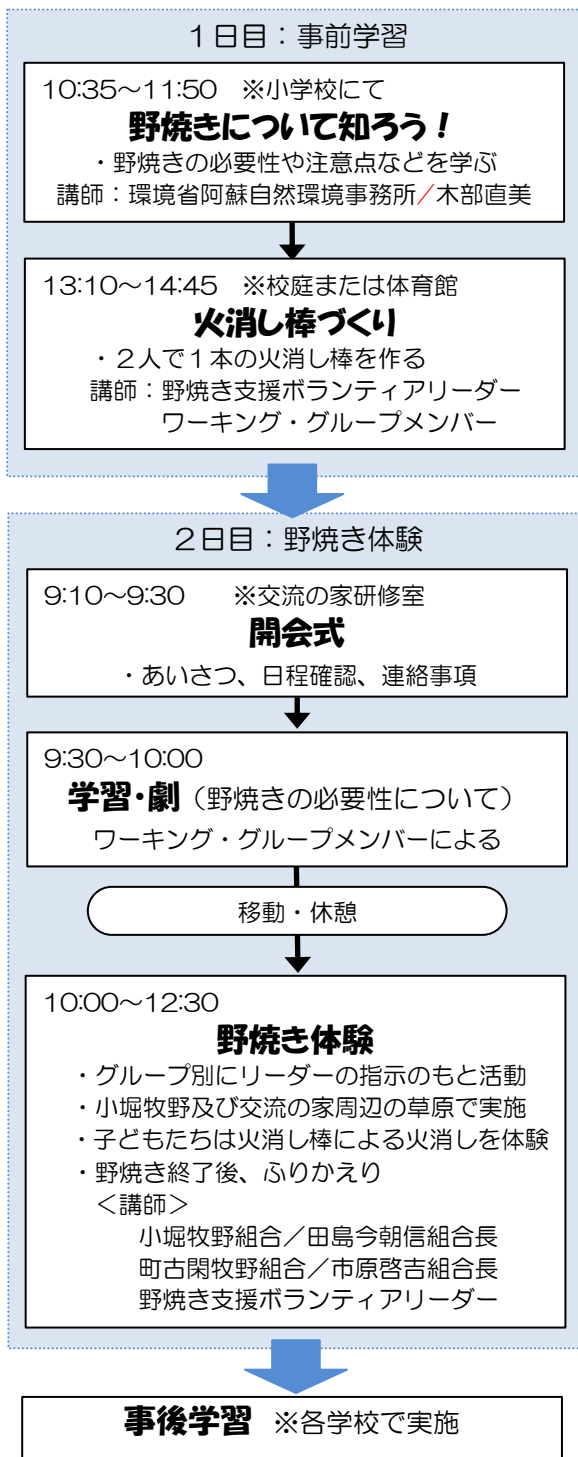


劇を通して草原の現状と危機を学ぶ



牛のえさやり体験でミソ団子を与える子どもたち

## ■プログラムの概要【野焼き編】



体験の前に、阿蘇の野焼きについて劇を見て学習



松明を使って火付けを体験



自分たちで作った火消し棒を使って火消し作業



焼けた後の残り火の火消しに真剣に取り組む

### (3) 年間を通した学習プログラムの事例

阿蘇草原キッズ・プロジェクトのモデル校として、平成 21～23 年度に年間を通した草原環境学習プログラムを実践した阿蘇市坂梨小学校と碧水小学校の取り組み、個別の出前授業で年間を通して草原の学習を実施した南小国町のりんどうヶ丘小学校の取り組みを紹介します。

#### 1) 坂梨小学校（阿蘇市）における年間学習プログラムの実践

##### 「きらめき坂梨」

坂梨小学校では、平成 22 年度～23 年度の2年間、総合的な学習の時間を利用して、年間を通した草原環境学習プログラムを実践しました。

平成 23 年度は、3年生から6年生まで計 62 名を対象に学習プログラムを実践。毎年、学年に応じたプログラムを行いながら、つながりのある草原環境学習としていくことを目指しており、モデル校が終了した後も学校主体で取り組みを進めています。

#### ■平成 23 年度の実施概要

対象	3年生、4年生、5年生、6年生 計 62 名
実施期間	平成 23 年 5 月～平成 24 年 3 月
学習時間	主に総合的な学習の時間を利用して実施
進め方	3年生から6年生まで、つながりのある草原環境学習として実施。
全体目標	阿蘇の草原環境について草原にふれあいながら興味をもち、草原の現状と課題が分かり、自分たちができる学習や活動を積極的に行いながら草原維持改善を考える力を育てていく。

#### ■学年毎の実施概要

学年	学習時間	目標	主な実施概要
3年生 (16名)	12 時間/コマ ・野外 9 コマ ・教室 3 コマ	身近な草原にふれあいながら、草原環境に慣れ親しむことができる。	・春、夏、秋の草原での自然観察 ・まとめ
4年生 (16名)	約 27 時間/コマ ・野外 22 時間 ・教室 5 時間	身近な草原にふれあいながら、草原に生きる生物や動物に興味をもち、草原とのつながりを学ぶ中で、草原環境の課題が分かる。	・春、夏のいきもの観察 ・草原の一年 ・あか牛学習 ・野焼きについて学ぶ ・野焼き体験 ・学習成果の発表
5年生 (19名)	約 12 時間/コマ ・野外 8 時間 ・教室 4 時間	身近な草原にふれあいながら、草原環境の課題をより深く考え、草原の維持改善活動を自分たちのできることから進めていくことができる。	・野焼き後の草原観察 ・草原を守る取り組み ・草原を守るためにできることを考える ・野焼き体験
6年生 (11名)	約 11 時間/コマ ・野外 3 時間 ・教室 8 時間	草原の維持改善につながる取り組みを積極的に行いながら、地域社会へ情報発信していくことができる。	・草原を守る取り組み ・自分たちでできることを考える ・卒業証書づくり ・草原を守る活動の実践

坂梨小学校 年間学習プログラム（平成 23 年度）

学期	1 学期		2 学期					3 学期			
月	5 月中下旬	7 月中旬	9 月中旬	9 月下旬 ～10 月初旬	10 月中旬	11 月	12 月	2 月		3 月	
3 年生 (12 時間)	春の草原を探検しよう 時間:3 時間 場所:町古閑牧野 ・草原とふれあい草原を知る	夏の草原を探検しよう 時間:3 時間 場所:町古閑牧野、波野トラスト地 ・春の草原との変化を感じる			秋の草原を探検しよう 時間:3 時間 場所:町古閑牧野 ・春夏の草原との変化を感じる	学んだことをまとめよう 時間:3 時間 場所:坂梨小学校 ・草原の春～秋をまとめる					
4 年生 (約 27 時間)	春の草原のいきものを知ろう 時間:3 時間 場所:町古閑牧野 ・あか牛や草原のいきものとふれあう	夏の草原のいきものを知ろう 時間:3 時間 場所:町古閑牧野、波野トラスト地 ・草原のいきものとふれあう	草原の一年について学ぼう 時間:2 時間 場所:坂梨小学校 ・スライドを見ながら学び、疑問に思ったことについて質問する	あか牛について学ぼう(1) 時間:3 時間 場所:坂梨小学校、阿蘇清峰高校 ・ルデー号見学 ・あか牛の話聞く ・疑問点を調べる	あか牛について学ぼう(2) 時間:2 時間 場所:畜協直営牧場 ・肥育牛の見学を通して、畜産の一連の過程を学ぶ	学んだことを発表しよう 時間:3 時間 場所:坂梨小学校 ・これまでに学習した内容について、問題提起、今後やっていきたいという思いなどを発表		野焼きについて学ぼう 時間:1 時間 場所:坂梨小学校 ・野焼きと草原の関係、安全のために注意すること等について話を聞く	野焼き体験 時間:4～5 時間 場所:町古閑牧野 ・野焼きを体験する	体験をふりかえろう 時間:1 時間 場所:坂梨小学校 ・野焼き体験によって生じた疑問等について調べたり、専門家の話を聞く	発表しよう 時間:3～4 時間 場所:国立阿蘇青少年交流の家 ・学習の成果を発表し、草原再生に携わる関係者と共有する
5 年生 (約 12 時間)	野焼きの後を見てみよう 時間:3 時間 場所:町古閑牧野 野焼き箇所 ・野焼きをした場所がどうなっているかを観察する		草原を守る取り組みについて学ぼう 場所:坂梨小学校 時間:2 時間 ・草原の危機と草原を守る取り組みを紹介。専門家の話を聞く。	草原を守るために自分たちでできることを考えよう 場所:坂梨小学校 時間:1～2 時間 ・自分たちができることのアイディアを出して、計画を立てる。	実践！草原を守る活動 場所:坂梨小学校 時間:2 時間 ・計画を実行する			野焼き体験 時間:4～5 時間 場所:町古閑牧野 ・野焼きを体験する			
6 年生 (約 11 時間)			草原を守る取り組みについて学ぼう 時間:2 時間 場所:坂梨小学校 ・草原の危機と草原を守る取り組みを紹介。 ・専門家の話を聞く。	自分たちでできることを考えよう 時間:1～2 時間 場所:坂梨小学校 ・草原を守るために自分たちができることのアイディアを出して、計画を立てる。	卒業証書になる草を刈ろう 時間:3 時間 場所:町古閑牧野 ・草原に出かけ草を刈る。牧野の方から草の利用について話を聞く。	実践！草原を守る活動 時間:4 時間 場所:坂梨小学校 ・みんなで立てた計画をもとに、草原を守る活動を実践する	卒業証書を漉こう 時間:2 時間 場所:坂梨小学校 ・草原の草を漉きこんだ紙を作る				

## 2) 碧水小学校（阿蘇市）における年間学習プログラムの実践

### 「ステキ阿蘇大発見」

碧水小学校では、平成 21 年度の 2 学期から平成 23 年度まで、モデル校として草原環境学習プログラム「ステキ阿蘇大発見」を実践しました。5 年生から 6 年生終了まで草原について学習する形で取り組み成果を上げています。

平成 23 年度は、5 年生（39 人）と 6 年生（29 人）が総合的な学習の時間を使って草原環境学習に取り組みました。学習は、「探求活動」として、与えられたテーマの中で子どもたち自身が阿蘇の草原に興味を持ち、課題を持って調べ、発表するということを重視して進められました。5 年生の時に野焼きを体験し、それを受けるかたちで 6 年生の学習をスタート。卒業の時までに野草紙の卒業証書を作って終了するという流れができました。

#### ■碧水小学校における草原環境学習の全体目標：

子どもたちが阿蘇の草原に興味を持ち、実際に調べたり聞いたりする活動を通して、草原の価値や現状を理解し、草原を守るために自分たちができることを考え、実行できるような態度と実践力を身に付ける。さらには、これらの活動を通して、自分たちの住む地域の持つ良さや素晴らしさに気付くことができるようにする。

#### ■学年毎の実施概要

対象	5 年生（39 人）	6 年生（29 人）
実施期間	平成 23 年 9 月～平成 24 年 3 月	平成 23 年 5 月～平成 24 年 3 月
学習時間	総合の時間を利用して実施 （計 17 時間程度）	総合の時間を利用して実施 （計 35 時間程度）
進め方	「探求活動」として、与えられた大きなテーマの中で、子どもたち自身が興味関心をもち、課題を持って調べ、まとめ成果を共有する。	「探求活動」として、与えられた大きなテーマの中で、子どもたち自身が興味関心をもち、課題を持って調べ、自分たちで考えた活動に取り組み、発表する。
プログラムのねらい	地域の自然環境やいきものに興味を持ち（火山、動物、草原の植物、牛など）、調べ学習を通じてさらに学ぶなかで、阿蘇の自然についてもっと知りたいという気持ちになる。その後、野焼きを体験し、阿蘇の草原に対して興味・関心を持つ。	草原の価値を実感し、草原環境が直面する現状・課題に対して自分たちができることを考えて行動し、学んだことを地域社会へ情報発信していくことができる。
主な実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿蘇から連想するもの</li> <li>・火山や草原体験、生きもの観察</li> <li>・知りたいことや疑問を調べたり、専門家を交えた学習</li> <li>・野焼きの学習</li> <li>・野焼き体験</li> <li>・学習成果の発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野焼き学習</li> <li>・草原の価値と現状を学ぶ</li> <li>・知りたいことや疑問を調べたり、専門家を交えた学習</li> <li>・草原を守るために、自分たちにできることを考える</li> <li>・卒業証書づくり</li> <li>・草原を守る活動の実践</li> <li>・学習成果の発表</li> </ul>

碧水小学校 年間学習プログラム（5年生、平成23年度）

学期	2学期					3学期		
	1	2	3	4	5	6	7	8
ステップ	1	2	3	4	5	6	7	8
月	10月4日	10月6日	10月～	10月下旬	11月	2月		
学習テーマ	阿蘇から連想するもの	実際に見てみよう！	調べよう！	専門家に聞いてみよう！	調べたことをまとめて共有しよう！	野焼きについて学ぼう（事前学習）	野焼きを体験しよう	野焼きについて学ぼう（事後学習）
学習時間	1時間	4時間	2時間	2時間	2時間	1時間	4時間	1時間
教室学習	・「阿蘇」や「草原」から連想するものを出してみる ・スライドを見て、知りたいこと、見たいことを挙げる		・火山や草原を見て、もっと知りたいことを調べ、疑問やわからないことを抽出する	ステップ3で抽出した疑問やわからなかったことについて、専門家の話を聞く	専門家の話を聞いたり、調べてわかったことを発表し、他のグループと共有する	野焼きについて基本的なことをスライドを見ながら学ぶ。安全のための注意点などを伝える。		野焼き体験をふりかえる。野焼き体験で浮かんだ疑問について、考える。
野外体験学習		①阿蘇の火口を見ながら話を聞く。 ②草原を歩き、興味のあるものを見つける。					牧野組合の方や野焼きボランティアリーダーの指導のもと野焼きを体験する	
子どもたちに感じてほしいテーマ	○阿蘇の自然って面白そう	○阿蘇は活きている火山！ ○阿蘇の草原って「すごい」「面白い」、もっと知りたい	○こんなことがわかった！ ○もっとこんなことが知りたい	○へえ～そうなんだ！ ○じゃあ、これはどうなんだろう？	○調べてみたらこんなことがわかった ○調べたことを伝えたい	○野焼きをするといろいろな良いことがある ○野焼きをしないと草原は守れないんだ	○野焼きの炎はすごい！ ○野焼きはたいへんな仕事だ	○草原を守るには野焼きを続けていく必要があるんだ

碧水小学校 年間学習プログラム（6年生、平成23年度）

学期	1学期					2学期						3学期	
	1	2	3	4	5	6	6	7	8	9	10	11	12
ステップ	1	2	3	4	5	6	6	7	8	9	10	11	12
月	5月27日	6月2日	6月中下旬	7月4, 5, 8日	7月	9月13日	9月22日	10月3日	10月～3月	11月13日	12月	1月～2月	3月
学習テーマ	野焼きは何のため？	草原の価値とその現状	知りたかったことをあげて予想してみよう！	専門家に聞いてみよう！	まとめよう！	夏休みに調べたことを共有しよう！	自分たちは何ができるか考えてみよう！	卒業証書を作ろう① 草原の草を刈ろう！	自分たちができることを実践しよう！	発表しよう！ ①	卒業証書を作ろう② 紙を漉こう！	発表に向けてまとめよう・練習しよう	発表しよう！ ②
学習時間	3時間	2時間	1時間	2時間	1時間	1時間	2時間	3時間	6時間	時間外	2.5時間	10時間	3時間
教室学習		・スライドで草原の一年を紹介。 ・「草原の価値」と草原が直面している危機を学び、草原が減っている理由を考える。	・ステップ2までの学習から、疑問やもっと知りたいことをあげる。 ・疑問について自分なりの予想を立てる。	・ステップ3で予想を立てた学習問題について専門家が話を聞く。 ・さらに知りたいことについて質問する。	・専門家の話を聞いてわかったことをまとめて、1学期の学習をふりかえる。	・夏休みの間に調べたことを発表して共有	・1学期で学んだことをふりかえる ・草原を守るための活動を紹介します。 ・自分たちにできることを考える。		・阿蘇の草原を守るために自分たちにできることに取り組む	・碧水フェスティバルでこれまでの学習内容を発表。	・10月に草原で刈ったスキを使って、紙すきに取り組む。 ・できた野草紙は卒業証書となる。	・実践をふりかえり、まとめる。 ・長い目でみて、今後取り組みたいことがあるだろうか？	・学習発表会を開催し、協議会参加者に見てもらおう。
野外体験学習	・野焼き後の草原を見に行く。 ・野焼き直後の草原とどうかわったか観察する。							・草原で、卒業証書の材料となるスキを刈取る。 ・同時に、スキを観察しよう！					
子どもたちに感じてほしいテーマ	○いのちの力よさ ○野焼きの効果やふしぎ	○草原には色々な価値がある。その草原が危機に直面している。 ○草原が減っているのは人の関わり方が変わったから	○草原が減るとどうなるんだろう？	○草原があぶない！ ○草原を守るには人の手が必要なんだ	○草原の危機は色々な原因による ○草原が無くなると、失われるものがたくさんある	○いろいろなことがわかった ○人それぞれ興味のあるところや調べ方が違って面白	○今のわたしたちに、なにができるだろう？	○草原の草は資源なんだ ○この草原がずっと残って欲しい	○わたしたちにもできることがある ○やったぞ！	○学んだこと、わかったことを周りの人に伝えたい	○草原を守るために自らができることに取り組む ○草原の草が原料となって紙ができること、ものをつくる楽しさを知る	○いろいろなことがわかったし、実践できた ○これからどんなことができるんだろう？	○子どもたちが行った活動に興味があった ○たくさんの人が草原の保全に関わっている



### 3) りんどうヶ丘小学校（南小国町）～ワークブックを活用した草原環境学習の実践～ りんどうヶ丘の草原で見つけよう！

南小国町のりんどうヶ丘小学校は、草原の中にある学校です。その恵まれた環境を活かして、平成 23 年度から、4 年生が春から翌年早春まで年間を通して草原学習を行っています。

「阿蘇の草原ワークブック～阿蘇のくらしと豊かな草原～」を使った草原学習とともに、四季折々の草原や動植物の観察により、子どもたちは身近にある草原の素晴らしさを実感しています。

#### ■学習のねらい

- ・身近にある草原で動植物を発見・観察し、また、草原と人との関係を学ぶことを通して、りんどうヶ丘の自然環境の良さや素晴らしさに気づく。

#### ■実施概要

- ・実施期間：平成 24 年 5 月～平成 25 年 3 月
- ・対象：4 年生（8 名）
- ・実施時間・回数：毎回 2 コマ / 105 分（10:45～12:30）、計 6 回
- ・毎回、教室内学習と野外体験学習を組み合わせ実施
  - \* 教室内学習：教材として「阿蘇の草原ワークブック～阿蘇のくらしと豊かな草原～」を利用して学習
  - \* 野外体験学習：校舎周辺の草原を利用して野外体験学習

#### ■進め方

- ・春・夏・秋、一年を通して草原の様子、そこにくらす動植物のようすを観察する。
- ・それとともに、人と草原の関わりについても学び、草原環境の維持・保全には、人の利用や管理が欠かせないことを知る。



阿蘇の草原ワークブックの表紙

#### ■年間の学習スケジュール

実施時期	ワークブックの学習	野外体験学習	ねらい
春 5月	草原と野焼きの学習 (P2～5)	草原で野焼きのあとを探し、春の草原で見られる動植物を観察	「草原って面白い！」興味や関心を引き出す
夏 7月	牛や馬の放牧、草刈りと草の保存の学習 (P6～7)	草原と教室で、夏草を使って押し花づくりを体験	草原では人々が色々な活動をしていることを知る
初秋 9月	草刈りと草の保存の学習 (P8～9)	草原で初秋の花や昆虫などを観察	昔の人の知恵や草原利用のようすを知る
盛秋 10月	草の利用と草原と人との関わりを学ぶ (P10～11)	草原で秋の実りのようす（種）や、秋に見られる動植物を観察	人が関わることで草原が維持されてきたことを知る
晩秋 11月	草原の危機について学ぶ (P12～13)	冬の気配が漂い始める草原で、カヤネズミの巣探しなど、自然観察	草原の危機とそれに対する取り組みを知る
早春 3月	草原を守る取り組みの学習 (P14～15)	草原で、野焼きのあとを観察	野焼きのあとの草原に立ち、火の力や生命の強さを実感

■各回の学習の流れ

「春の草原で見つけよう！」 H24年5月24日

＜導入＞○草原ってなんだろう？～草原クイズ～  
 ＜展開＞○ワークブックを開いて野焼きの学習（P2～5）  
 ＜つなぎ＞では、野焼きが終わって2か月たった草原を見に行こう！ ⇒野外に行く準備、トイレ

＜展開＞ 草原にて

- 活動①「歩きながら探してみよう」  
 活動②「りんどうヶ丘の植物を調べよう」
- ・ここにある植物の中で特に気に入ったものを一つ選び、良く観察しよう（15分くらい）
  - ・観察した植物をみんなに紹介しよう！

＜ふりかえり＞

- ・教室に戻って感想を書こう
- ・草原は刻々と変わっていく⇒次は夏！

「夏の植物を観察しよう！」 H24年7月5日

＜導入＞○草原クイズ+質問への対応  
 ＜展開＞○ワークブックを開いて放牧の学習（P7～8）  
 ＜つなぎ＞では、夏の草原を見に行こう！  
 ⇒野外に行く準備、トイレ

＜展開＞ 草原にて

- 活動①「歩きながら探してみよう」（15分）  
 活動②「りんどうヶ丘の植物を押し花にしよう」
- ・ここにある植物の中で押し花にしたい植物を2つ選び、教室に持って帰ろう（15分くらい）

＜教室にて＞

- ・特徴を良く見てみよう⇒図鑑で調べてみる
- ・押し花を作ろう（全部で20分）

＜ふりかえり＞

- ・今日はどうだった？あとで感想を書いてね！
- ・草原は刻々と変わっていく⇒次は9月だよ！



草原で発見！

2012.5.24 りんどうヶ丘小学校4年生 草原学習ワークシート

名 前： \_\_\_\_\_

見つけたものに名前をつけよう：

とくちょうを書こう！

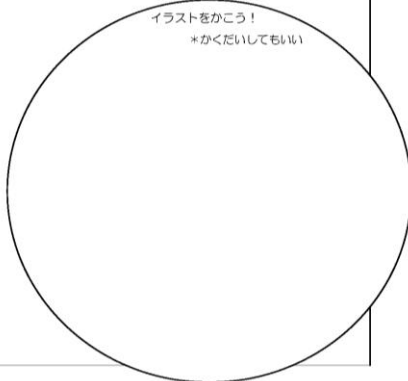
○色は？

○さわったかんじは？

○においは？

○ほかのめだつとくちょうは？

イラストをかこう！  
 \*かくだいしてもいい



草原の植物を押し花にしよう！

2012.7.5 りんどうヶ丘小学校4年生 草原学習ワークシート

名 前： \_\_\_\_\_

植物①：

とくちょうを書こう！  
 ○花や葉の色は？

○花のかたちは？

○葉かたちや葉のつきかたは？

○ほかのめだつとくちょうは？

植物②：

とくちょうを書こう！  
 ○花や葉の色は？

○花のかたちは？

○葉かたちや葉のつきかたは？

○ほかのめだつとくちょうは？

＜使用したワークシート＞

上：「春の草原で見つけよう！」

（H24.5.24）で使用

右：「夏の植物を観察しよう！」

（H24.7.5）で使用

### 「秋の植物を観察しよう！」H24年9月13日

＜導入＞○草原クイズ+質問への対応

- ・どんな押し花ができたかな？

＜展開＞○ワークブックを開いて、草刈りと草の保存、草の利用について学習（P8～10、25分）

＜つなぎ＞では、秋の草原を見に行こう！

⇒野外に行く準備、トイレ

＜展開＞ 草原にて

活動①「秋の草原で見つけた！」（35分）

- ・夏の草原と秋の草原の違いは？
- ・ススキの花が咲いている。どんな花かな？

＜教室にて・ふりかえり＞

- ・今日はどうだった？あとで感想を書いてね！
- ・草原は刻々と変わっていく⇒次は10月だよ！

### 「秋の植物を観察しよう！～秋たけなわ編～」

H24年10月17日

＜導入＞○草原クイズ+質問への対応

＜展開＞○ワークブックを開いて、草の利用、草原と人との関わりについて学習（P10～11、25分）

＜つなぎ＞では、秋の草原を見に行こう！

⇒野外に行く準備、トイレ

＜展開＞ 草原にて

活動①「秋の草原で見つけた！」（40～45分）

- ・前回の草原と秋たけなわの草原の違いは？
- ・秋の花と種の競演

＜教室にて・ふりかえり＞

- ・今日はどうだった？あとで感想を書いてね！
- ・草原は刻々と変わっていく⇒次は11月だよ！

### 「秋の植物を観察しよう！～秋の終わり編～」

H24年11月22日

＜導入＞○草原クイズ+質問への対応

＜展開＞○ワークブックを開いて、草原の減少について学習（P12～13、25分）

＜つなぎ＞では、秋の終わりの草原を見に行こう！

⇒野外に行く準備、トイレ

＜展開＞ 草原にて

活動①「晩秋の草原で見つけた！」（40～45分）

- ・前回の草原と秋の終わりの草原の違いは？
- ・種やかヤネズミの巣探し

＜教室にて・ふりかえり＞

- ・かヤネズミの紙芝居でふりかえり
- ・今日はどうだった？あとで感想を書いてね！
- ・次は年明け、3月だよ！

### 「野焼きの後の観察」 H25年3月11日

＜導入＞○草原クイズ+質問への対応

＜展開＞○ワークブックを開いて、草原を守る活動（P14～15）+スライドを用いて野焼きの学習

＜つなぎ＞では、野焼き後の草原を見に行こう！

⇒野外に行く準備、トイレ

＜展開＞ 草原にて

「野焼き後の草原で見つけた」（50分）

- ・歩きながら時々止まって観察
- ・真っ黒な草原で見つかるものは？

＜教室にて・ふりかえり＞

- ・今日はどうだった？あとで感想を書いてね！
- ・これまで6回の草原の学習をしてきましたが、今日が最後です。これからも、時々、りんどうヶ丘の草原に出かけて観察してくださいね。




<使用したワークシート>

りんどうヶ丘小学校4年生 草原学習ワークシート

はっけん  
草原で見つけよう！発見シート！

\_\_\_\_月 \_\_\_\_日( ) 名前：\_\_\_\_\_

草原で発見したものをきろくしておこう！イラストをかいてもいいよ！




上：自然観察で使用  
右：ふりかえりで使用

りんどうヶ丘小学校4年生 草原学習ワークシート


かんそう  
草原で見つけよう！感想シート

\_\_\_\_月 \_\_\_\_日( ) 名前：\_\_\_\_\_

今日の学習についての感想かんそうを書こう。  
学習をとおして、どんなことを考えましたか？どんな気持ちになりましたか？



草原で観察して、うかんだ疑問ごもんやもっと知りたいと思ったことを書こう。



【参考】各学校での草原環境学習の取り組みに向けて

■参考資料

資料名	著者、発行者など	発行年
ついつい子どもに伝えたい!! 阿蘇の草原ハンドブック	九州地方環境事務所	2005.3月
阿蘇の草原ワークブック 阿蘇のくらしと豊かな草原	九州地方環境事務所 阿蘇自然環境事務所	2006.3月
阿蘇の草原ワークブック 教師用指導書	九州地方環境事務所 阿蘇自然環境事務所	2006.3月
ASO いざ草原へ 阿蘇ものしりブック	九州地方環境事務所 阿蘇自然環境事務所	2006.3月
阿蘇の火山	池辺伸一郎著	1995.2月
阿蘇の野の花Ⅰ	佐藤武之著、西日本新聞社 発行	1978.8月
阿蘇の野の花Ⅱ	佐藤武之著、西日本新聞社 発行	1988.10.25
阿蘇の野の花Ⅲ	佐藤武之著、西日本新聞社 発行	1991.10月
一の宮町史 草原と人々の営み	大滝典雄著、一の宮町 発行	1997.12.20
一の宮町史 阿蘇山と水	田中伸廣著、一の宮町 発行	2000.3.27
一の宮町史 阿蘇火山の生い立ち	渡辺一徳著、一の宮町 発行	2001.3.15
一の宮町史 自然と生き物の讃歌	今江正知著、一の宮町 発行	2001.10.31
草原を守るための野草紙マニュアル「阿蘇の草原から野草紙を作ろう！」	NPO 法人九州バイオマスフォーラム	2008.3.28
猫岳子の阿蘇 水の本	NPO 法人阿蘇ミュージアム	2012.2.11

■施設紹介

施設名	住所	備考
阿蘇火山博物館	阿蘇市赤水（草千里）	火山・ジオパークや草原に関する展示・解説、体験学習
国立阿蘇青少年交流の家	阿蘇市宮地	自然体験学習・研修、宿泊
なみの高原やすらぎ交流館	阿蘇市波野	自然体験学習、宿泊
自然公園財団 情報センター	阿蘇市黒川	国立公園、草原に関する情報
南阿蘇ビジターセンター・阿蘇野草園	高森町大字高森	自然観察、自然体験学習
大観峰展望所・園地	阿蘇市山田	カルデラ・阿蘇谷の景観、自然観察
かぶと岩展望所・園地	阿蘇市西小園	カルデラ・阿蘇谷の景観、自然観察
草千里展望所	阿蘇市草千里ヶ浜	中央火口丘等の景観
米塚下園地	阿蘇市赤水	草原体験、自然観察
城山展望所	阿蘇市一の宮町三野	カルデラ・阿蘇谷の景観
俵山展望所	南阿蘇村河隠	カルデラ、南郷谷の景観

■阿蘇草原キッズ・プロジェクト及び草原環境学習プログラムに関する問い合わせ窓口

問い合わせ窓口	住所	備考
阿蘇草原再生協議会 草原環境学習小委員会 ワーキング・グループ事務局	阿蘇市黒川 1180 (九州地方環境事務所 阿蘇 自然環境事務所内)	草原環境学習プログラム実施に関する全般
公益財団法人阿蘇火山博物館	阿蘇市赤水 1930-1 (草千里)	火山学習、草原体験学習等
独立行政法人国立青少年教育振興機構国立阿蘇青少年交流の家	阿蘇市宮地 6029-1	ショートスクール(宿泊型草原体験学習)、野焼き体験等
NPO 法人九州バイオマスフォーラム	阿蘇市宮地 5816	スキを使った紙漉き
公益財団法人阿蘇グリーンストック	阿蘇市の石 1537	農村体験、草原体験学習



阿蘇草原キッズ・プロジェクト  
草原環境学習事例集 ～阿蘇の子どもたちに草原を伝えよう～

発行：平成25年7月

阿蘇草原再生協議会 草原環境学習小委員会

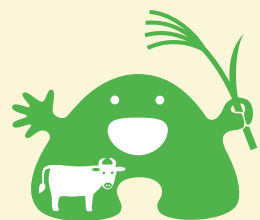
連絡先：草原環境学習小委員会事務局（九州地方環境事務所 阿蘇自然環境事務所内）

〒869-2225 熊本県阿蘇市黒川1180

TEL:0967-34-0254 FAX:0967-34-2082

※本事例集は、環境省九州地方環境事務所の支援により編集しました。

※本冊子は、阿蘇草原再生募金の第3弾助成を受けて印刷しました。



阿蘇草原再生